小橋工業(株)のホームページ（以下、弊社サイト）においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス（以下、本サービス）をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社（小橋工業株式会社）が著作権その他知的財産権を保有します。
無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

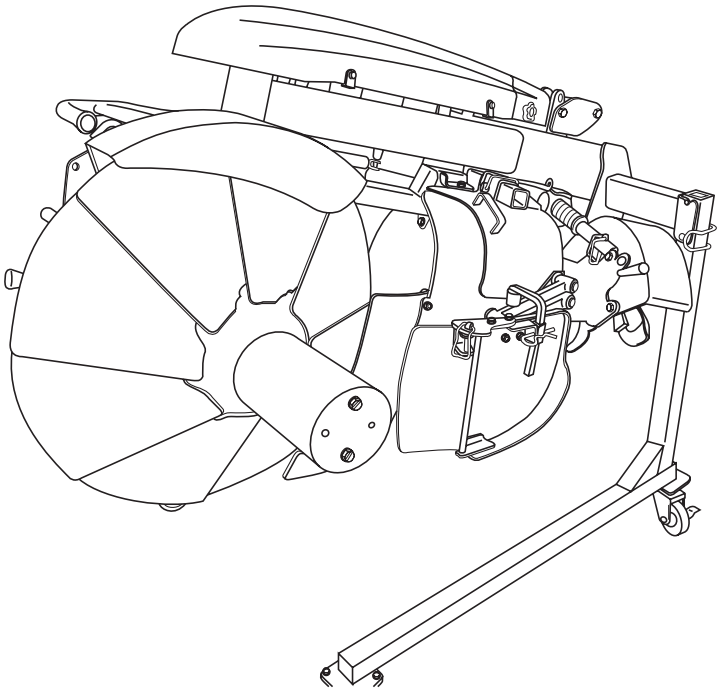
小橋工業株式会社

安全頁必読

コバシアゼローター

取扱説明書

FR751C（B）　FR751F（B）
FR851C　　FR851F



FR751C

当製品を安全に,また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると,事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

0142193
-005

はじめに

このたびはコバシアゼローターをお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、アゼローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。
又、アゼローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。
なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

⚠安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。
◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。
必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

⚠危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。
取扱い上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシアゼローターの使用目的・使用範囲

このコバシアゼローターは水田の畦塗用作業機です。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行なわないでください。

目　次

⚠ 安全に作業するために……1
1 はじめに ……1
2 作業の前に ……1
3 トラクタへの着脱 ……1
4 防護カバー類の取付け ……2
5 装着時の前後バランスの確認 ……2
6 トラックへの積み・降ろし ……2
7 一般走行 ……2
8 圃場への出入り ……3
9 作業をしている時 ……3
10 作業中の点検 ……4
11 トラクタを止めるとき ……4
12 電動油圧シリンダの取扱い ……4
13 その他 ……4

⚠ 安全ラベルの取扱い ……5～8
サービスと保証について ……9
各部の名称 ……10～13
アゼローターの開梱 ……14
ジョイントの取付準備 ……14
1 切断方法……14
2 取付方法……15
3 長さの確認……15
4 入力軸セフティカバーの取付け……16
トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチS-0・I形）…16
1 装着前の準備……16
2 トラクタへの装着……18
3 装着後のトラクタとの調整……21
4 トラクタからの取外し……22
トラクタへの装着（日農工特殊3Pヒッチ）…24
1 トラクタへの装着……24
2 トラクタからの取外し……26
フロントウエイトの装着 ……27
トラクタの電源接続と配線 ……28
スイッチハーネスの取付け及び接続 …29～32
作業前の点検 ……33
1 各部のボルト・ナットのゆるみ……33
2 ジョイントへのグリスアップ……33
3 ギヤケースのオイル量……33
4 ジョイントのノックピン……34
5 チェンへの注油……34
6 空転、暖機運転……34
圃場の準備 ……35
移動、圃場への出入り ……36
前進作業状態のセットの仕方（手動式）……37
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合…37
2 前進作業状態から格納状態にする場合…38～39
前進作業状態のセットの仕方（電動式）……40
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合…40
2 前進作業状態から格納状態にする場合…40
畦塗り作業の仕方 ……41
1 作業前の各部の調整……42～47
2 上手な畦塗りの仕方……47～48
作業後の手入れ ……48
部品交換方法と注意事項 ……49
1 シャーボルト……49
2 耕うん爪……50
保守・点検 ……51～55
保管・格納 ……56
点検整備一覧表 ……57
トラクタ別装着表……58～63
異常診断一覧表 ……64
消耗部品 ……65
主要諸元 ……66～71
用語解説 ……72

⚠安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。
機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。

1-4 **適応トラクタ以外への装着の禁止**
主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。

1-5 **服装には注意を払いましょう**
作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。

1-6 **次のような状態では運転しないでください。**
① 飲酒運転
② いねむり運転
③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
④ 若年者
⑤ 妊娠中の方
機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

1-7 共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 **機械の点検を**
各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。

3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。

3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。

3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。

3-5 ジョイントのノックピンが確実にPTO軸溝に、又、作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。

4 防護カバー類の取付け

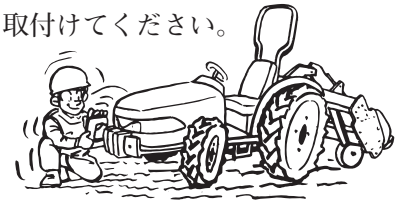
4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

5-1 **作業機とトラクタとのバランスの確認**

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20％以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たくなる場合もありますので注意してください。

又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

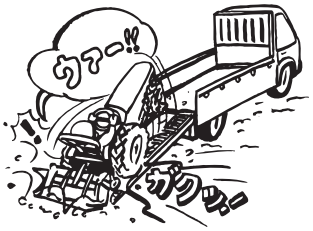
6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又、途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

（道路運送車両の保安基準）

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

などに引っかけて事故の原因になります。

7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。

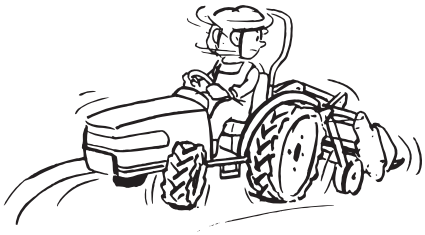
7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

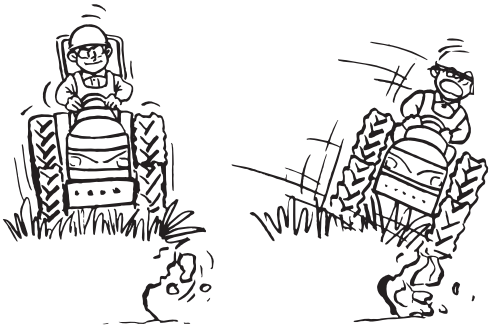
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。又、スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。

8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。

9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。

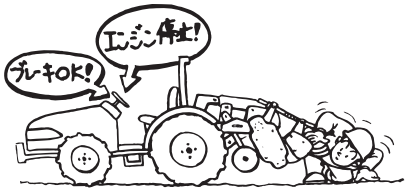
9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。

9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。

9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



10-2 点検のために外した防護カバーは、必ず元の通りに取付けてください。

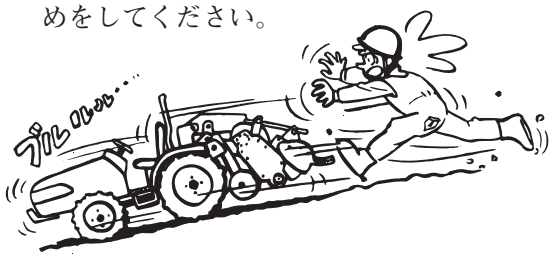
10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 電動油圧シリンダの取扱い

12-1 絶対に分解したり、修理・改造・調整をしないでください。

・油が吹き出したり、異常動作してけがする恐れがあります。

・調整ねじを緩めるとシリンダが急に伸縮し、作業機が落下する恐れがあります。

12-2 火気・熱気の中に投じないで下さい。

・タンク内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発の恐れがあります。

12-3 電動機に手を触れないでください。

・シリンダ作動時、電動機は高温になっており、やけどする恐れがあります。

13 その他

13-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

13-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

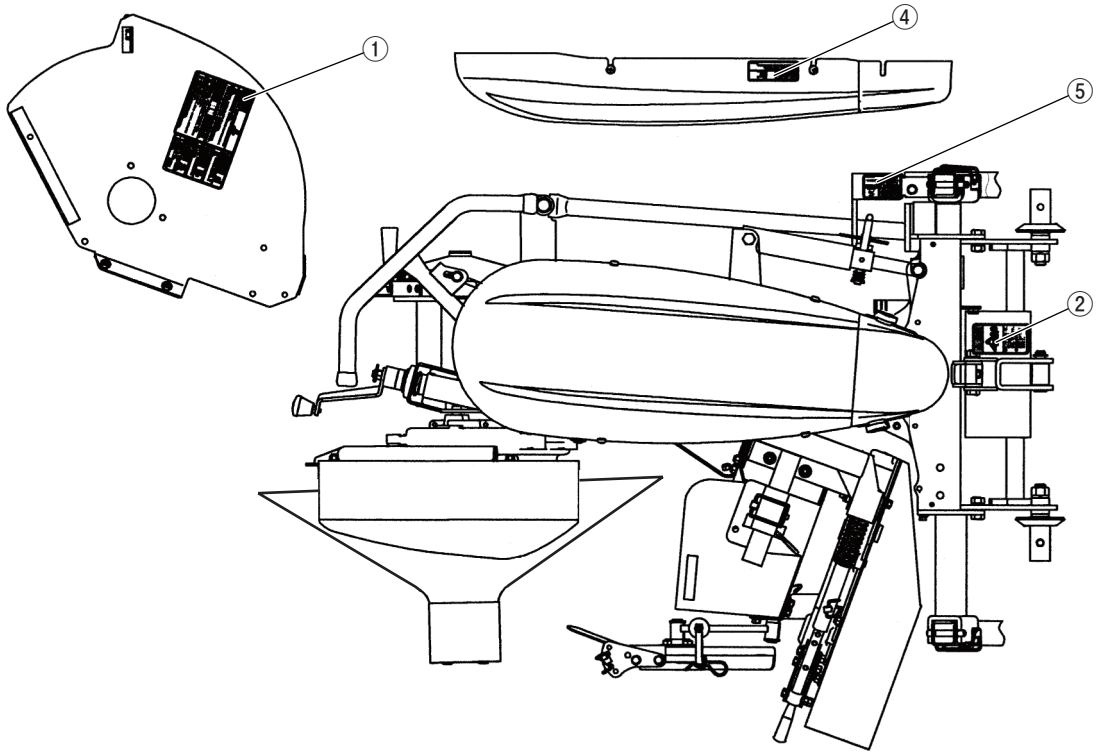
安全ラベルの取扱い

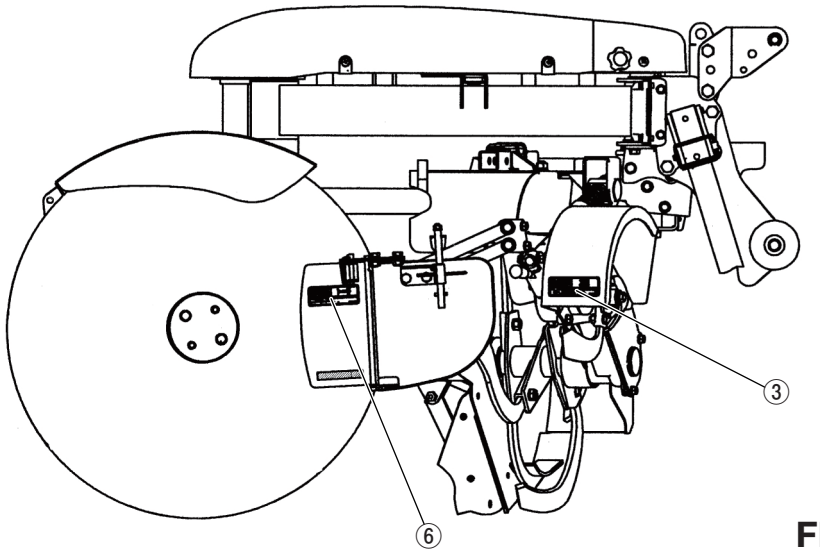
1 いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。

2 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。

3 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシアゼローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。





FR751C
FR851C

① コードNo.9993948

⚠警告

- 転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。
- ほ場への出入り及び移動（格納）する時は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。
- ほ場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。
- 作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。

⚠注意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

- 作業機を着脱するときは、トラクターと作業機の間に立たないでください。
- エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。
  作業機の上に人を乗せないでください。
- 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。
  また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。
- ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。

⚠注意

- 開閉操作は周囲に人がいないことと，十分なスペースがあることを確認して行ってください。

⚠注意

- 開閉操作時は、手などがはさまれないよう注意してください。

⚠注意

- スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。
- トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

9993948

② コードNo.9992126

⚠危険

- セフティカバーは、常に装着して使用してください。
- 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

③ コードNo.9993949

⚠警告

- ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

9993949

④ コードNo.9993951

⚠警告

- カバーは必ず装着して作業してください。
- 外したままにするとケガをするおそれがあります。

9993951

⑤ コードNo.9994053

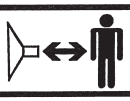
⚠注意

- スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。
- トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

9994053

⑥ コードNo.9993950

⚠注意



- ドラムには素手や素肌が直接触れないようにしてください。
- ケガをするおそれがあります。

9993950

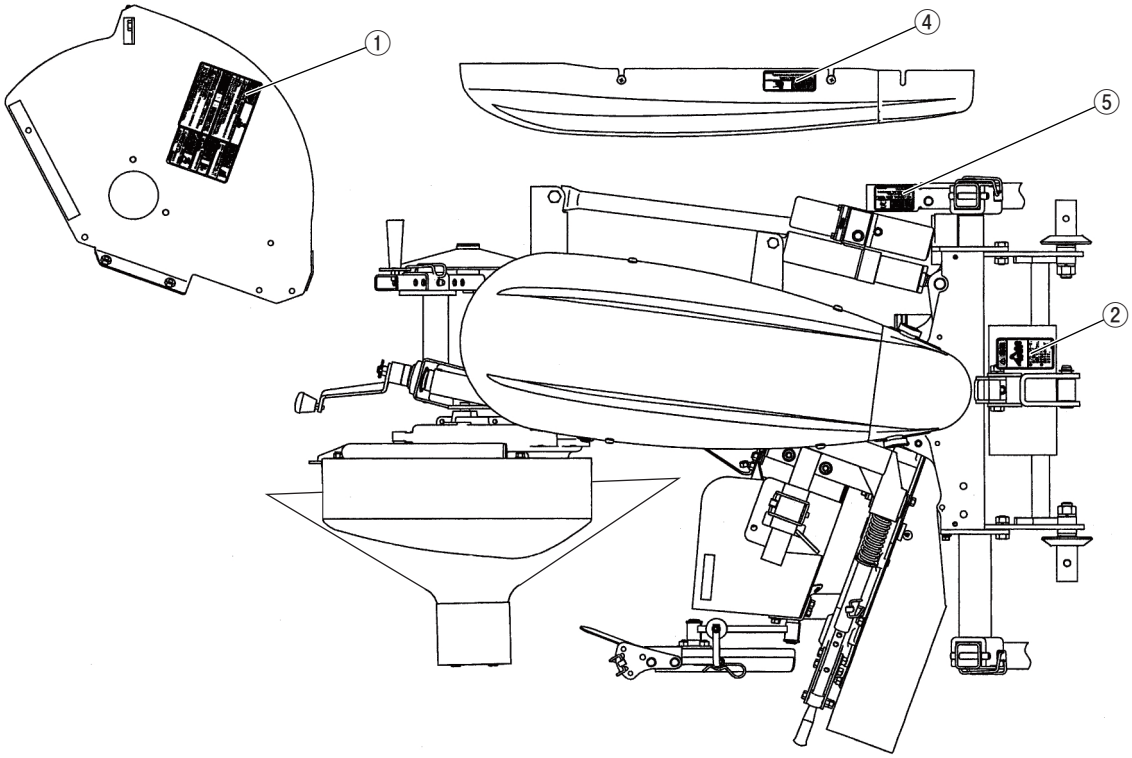
安全ラベルの取扱い

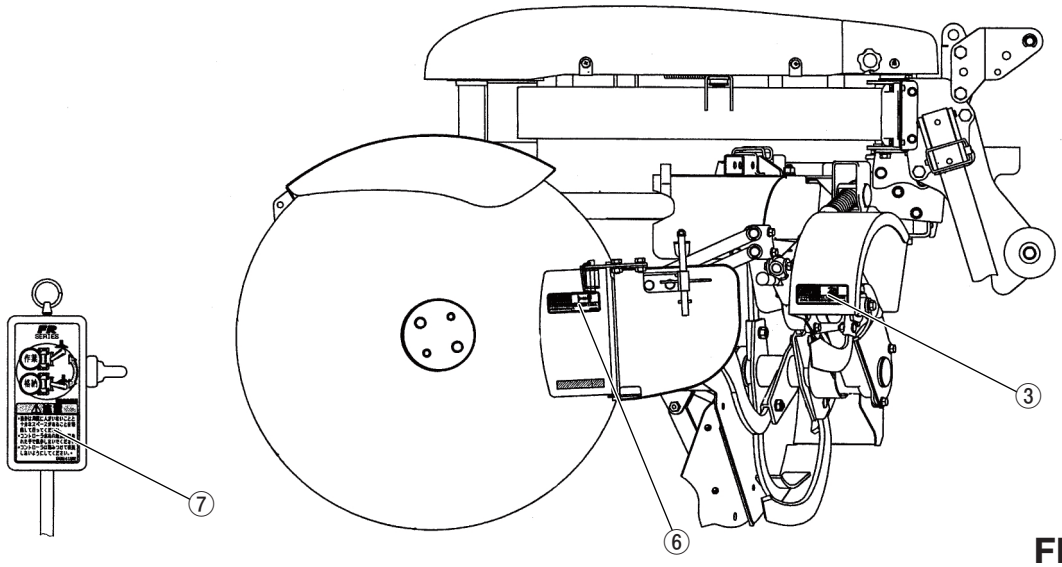
1 いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。

2 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。

3 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシアゼローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。





FR751F
FR851F

① コードNo.9993948

⚠警告

●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。
●ほ場への出入り及び移動（格納）する時は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。
●ほ場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。
●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。

⚠注意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

●作業機を着脱するときは、トラクターと作業機の間に立たないでください。
●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。
作業機の上に人を乗せないでください。
●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。
また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。
●ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。

⚠注意

●開閉操作は周囲に人がいないことと，十分なスペースがあることを確認して行ってください。

⚠注意

●開閉操作時は、手などがはさまれないよう注意してください。

⚠注意

●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。
●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

9993948

② コードNo.9992126

⚠危険

●セフティカバーは、常に装着して使用してください。
●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

③ コードNo.9993949

⚠警告

●ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

9993949

⑥ コードNo.9993950

⚠注意

●ドラムには素手や素肌が直接触れないようにしてください。
●ケガをするおそれがあります。

9993950

④ コードNo.9993951

⚠警告

●カバーは必ず装着して作業してください。
●外したままにするとケガをするおそれがあります。

9993951

⑤ コードNo.9994053

⚠注意

●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。
●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

9994053

⑦ コードNo.9994192

FR SERIES

作業

格納

KOBASHI

⚠注意

•操作は周囲に人がいないことと十分なスペースがあることを確認して行ってください。
•コントローラ水ぬれ厳禁。又ぬれた手で操作しないでください。
•コントローラは踏みつけて破損しないようにしてください。

9994192

サービスと保証について

1　保証書について

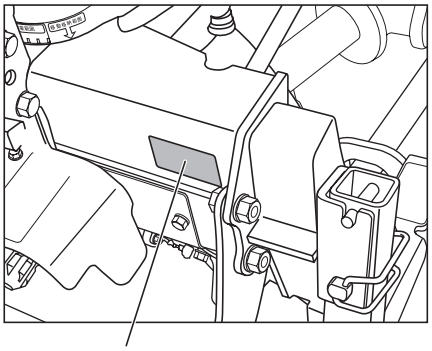
コバシアゼローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2　アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときには、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- ●機械の型式名と製造機械番号
- ●ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- ●どのくらい使用されましたか（約○○アール・約○○時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



製造機械番号

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後９年といたします。

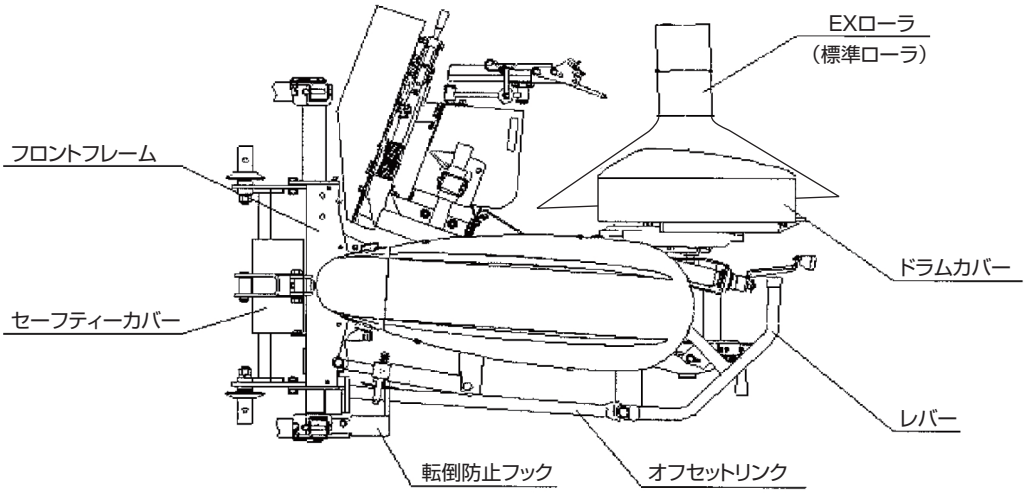
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきますので、ご了解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

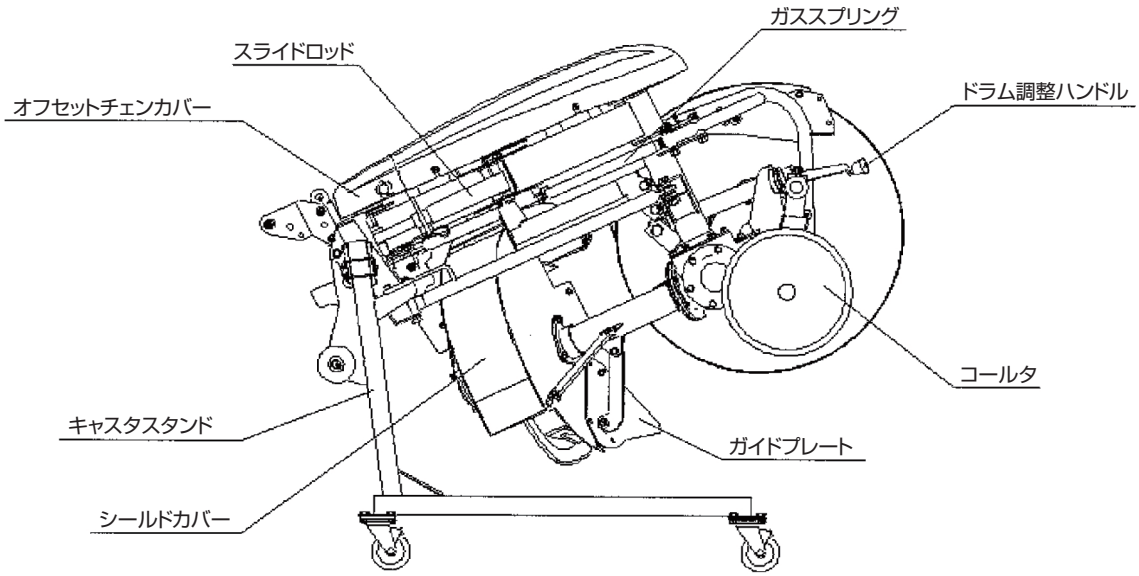
純正部品を使いましょう

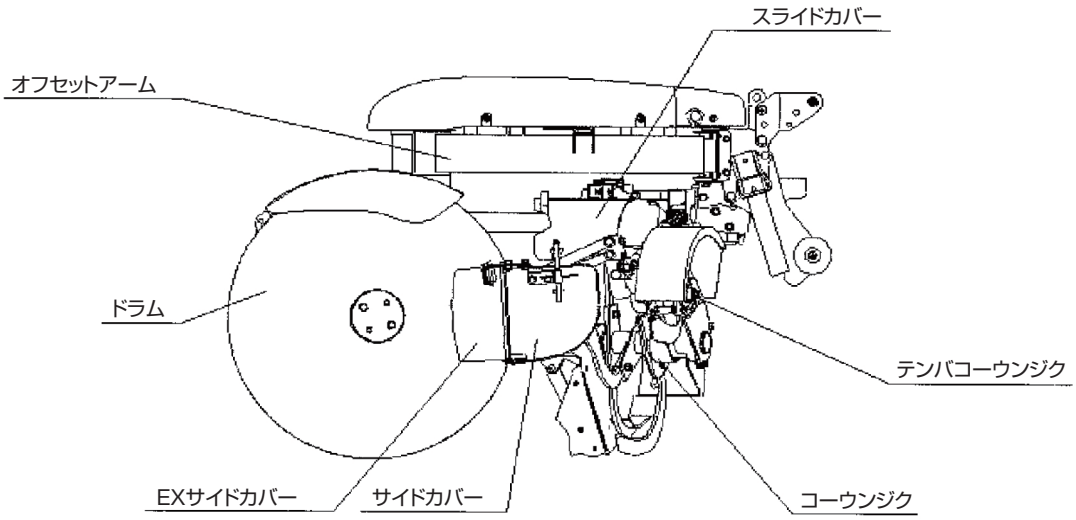
補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称（手動式）

FR751C, FR851C

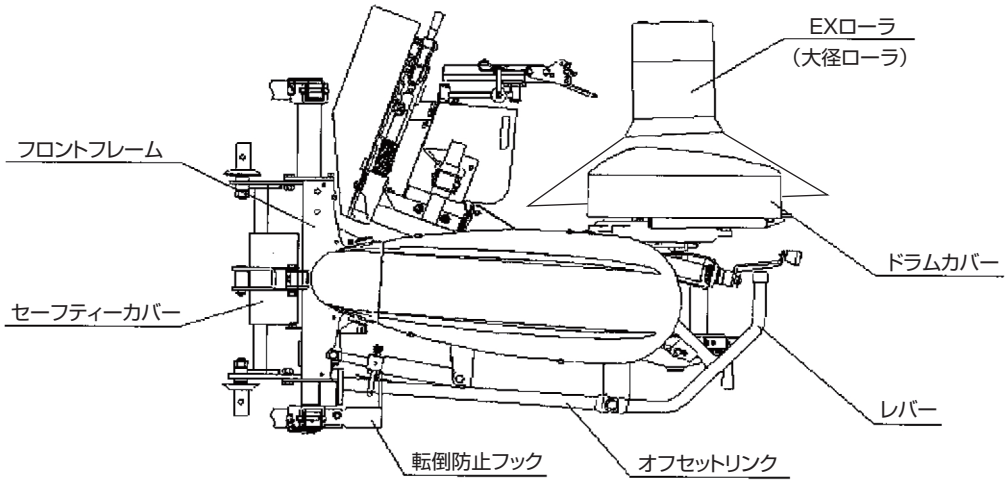


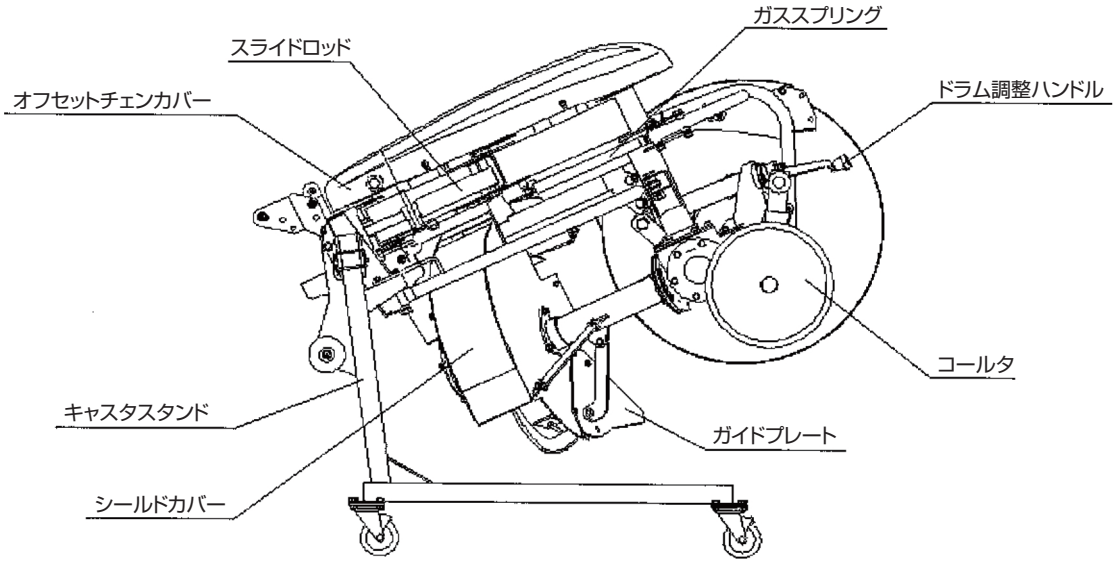


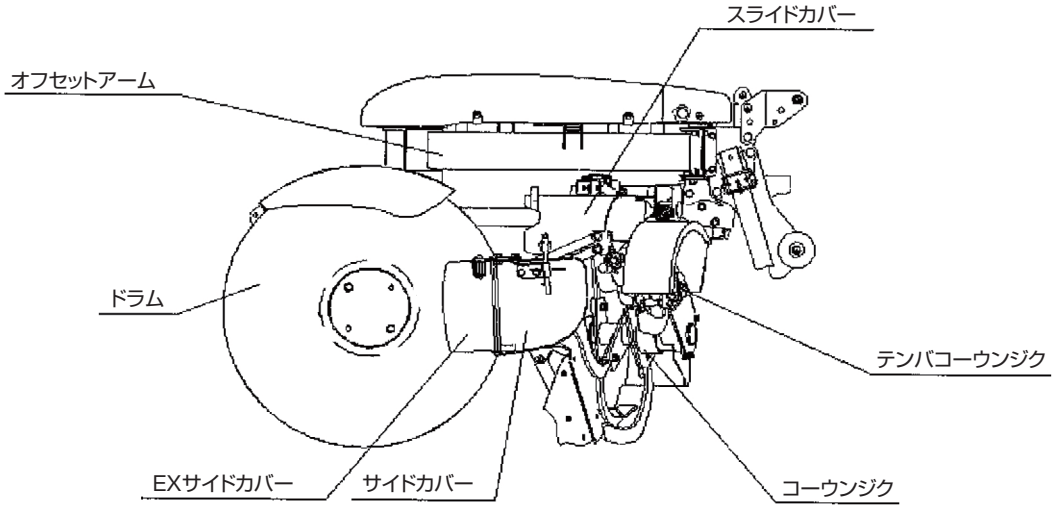


各部の名称（手動式）

FR751CB

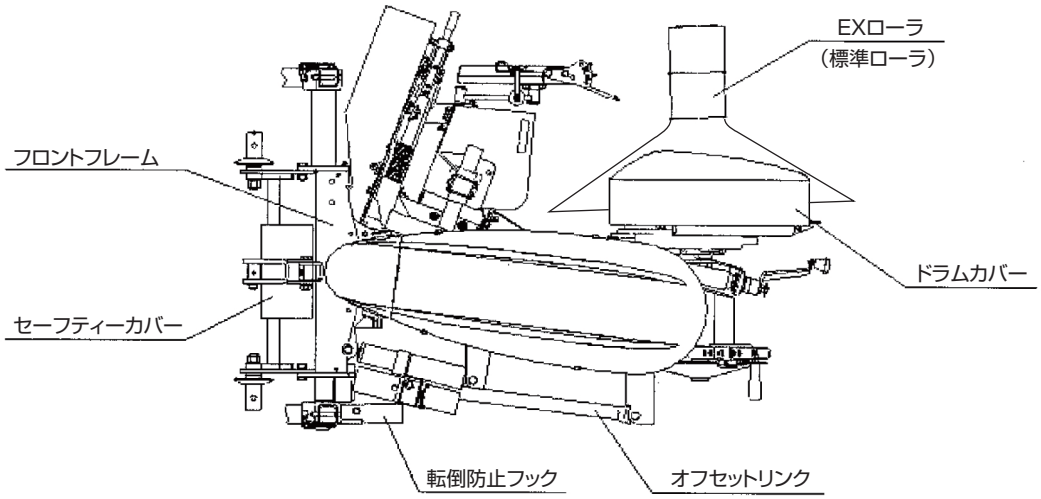


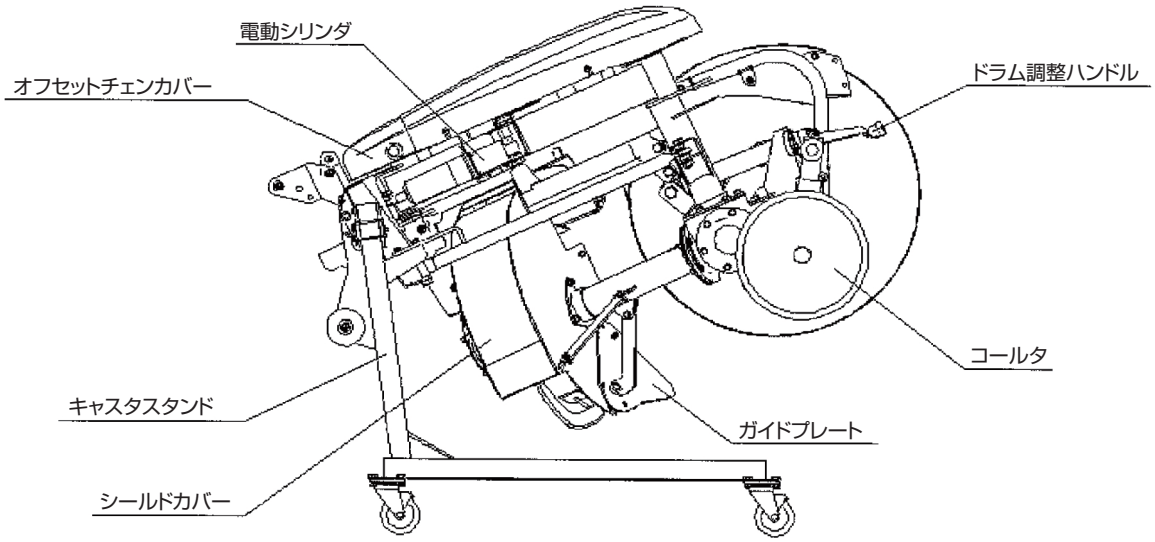


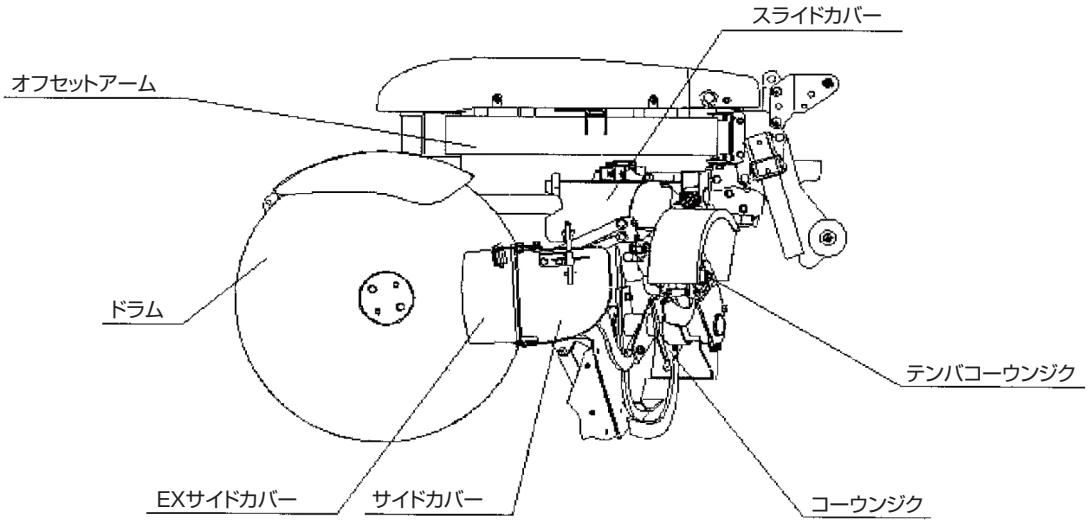


各部の名称（電動式）

FR751F, FR851F

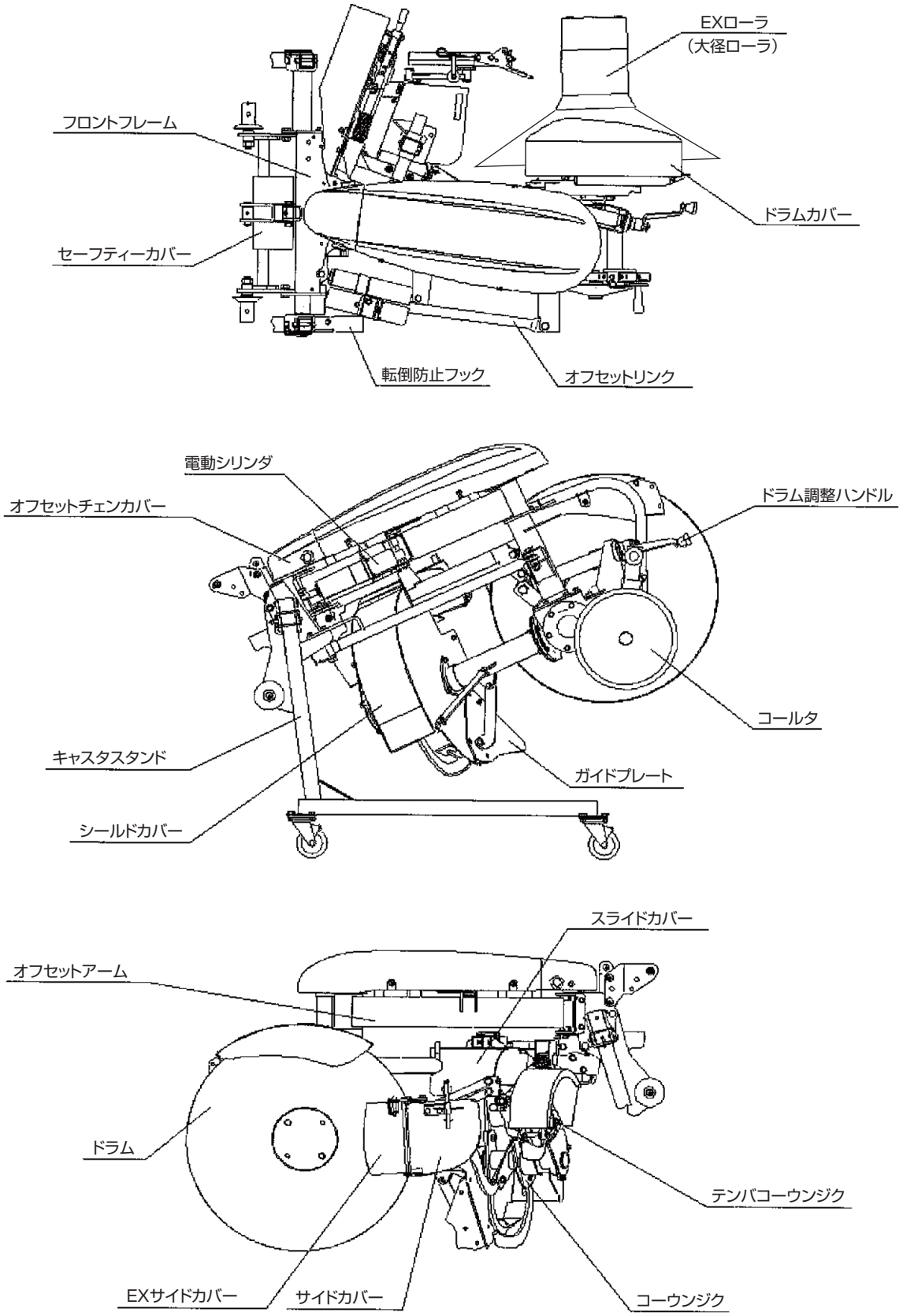






各部の名称（電動式）

FR751FB



アゼローターの開梱

1．開　梱

アゼローターは、鉄枠梱包されていますので開梱してください。

⚠ 注意

開梱する時は、開梱要領書に従い丈夫な手袋を着用して行なってください。鉄枠梱包には、スクリュウネジが使用されています。ネジの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

標準装備品

部　品　名	数量	摘　　要
オートヒッチ	1	4S、3S のみ
キャスタスタンドR	1	
キャスタスタンドL	1	
ジョイント	1	4S、3S のみ
スイッチハーネス	1	F 仕様のみ
束線バンド	5	F 仕様のみ
バッテリハーネスASSY	1	F 仕様のみ

標準装備品のつづき

部　品　名	数量	摘　　要
シャーボルトM8 × 30 U ナットM8	10	フロントシテンジク用 シャーボルト予備
シャーボルトM8 × 25 U ナット	10	天場コーウンジク用 シャーボルト予備
取扱説明書	1	

◆アゼローター（FR）はトップマスト、ヒッチブラケットを交換することにより、日農工標準 3P 仕様、日農工特殊 3P 仕様（A- Ⅰ形、A- Ⅱ形、B 形）、標準 3P 直装仕様にすることができます。交換部品は別途ご購入をお願いいたします。詳しくは販売店、農協にご相談ください。

ジョイントの取付準備

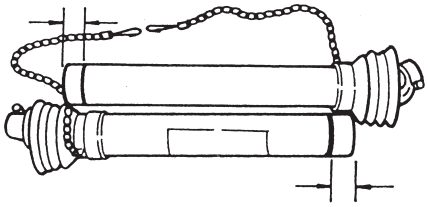
取扱上の注意

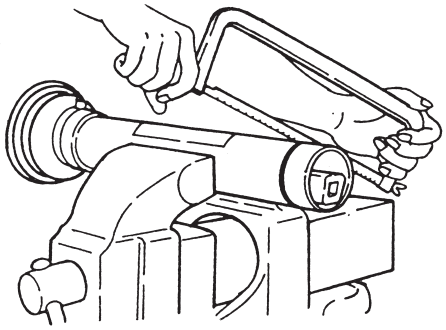
長すぎるジョイントを装着しますと、トラクタの PTO 軸と作業機の入力軸を突き破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

お願い 標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表（P.58 ～ P.63）を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

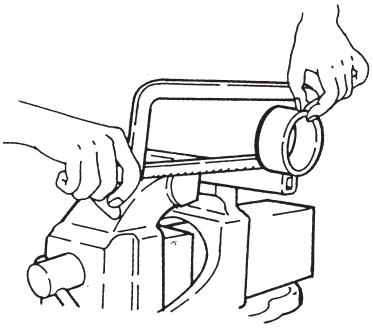
1　切断方法

1．長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。

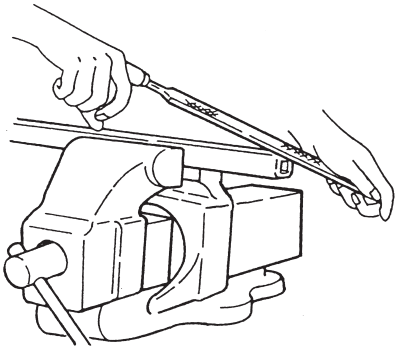




2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブを、金ノコ、又は、カッターでオス、メス両方切断します。

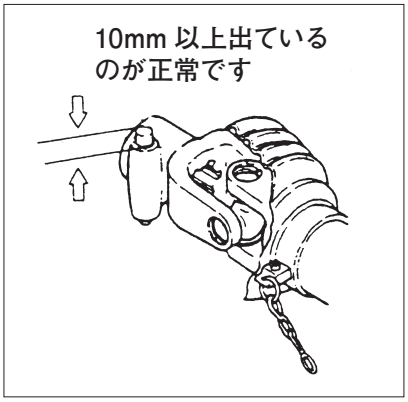


3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。

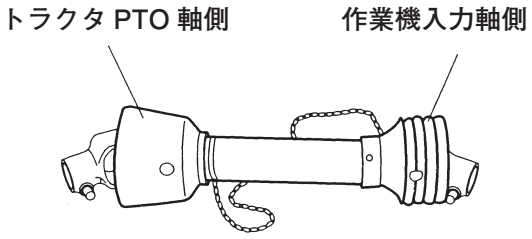


2 取付方法

1. ジョイントの、ノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。
ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの**「頭が10mm以上」**でているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。

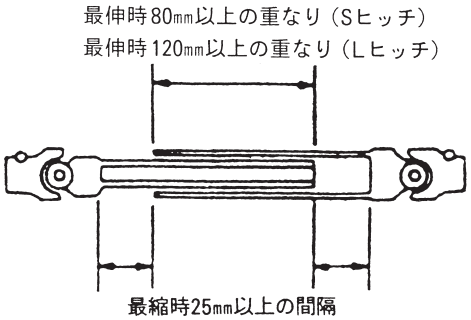


2. **広角ジョイントの取付方法**
3セットの時に、広角ジョイントを取り付ける場合は、必ず、広角側をトラクタPTO軸にセットしてください。

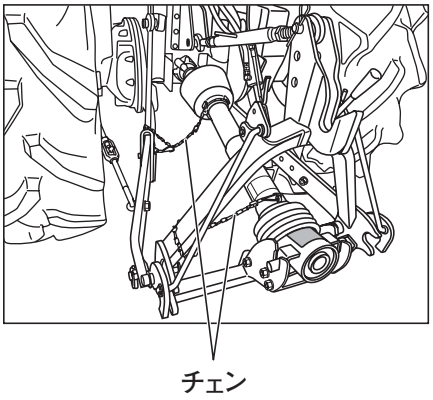


3 長さの確認

1. トラクタの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
(3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げて、ジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でも、軸を突き上げないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



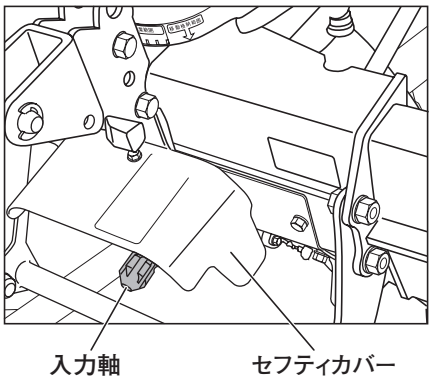
5. ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱいに下げてもチェンが緊張しないようにたるみをもたせてください。



4　入力軸セフティカバーの取付

⚠ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

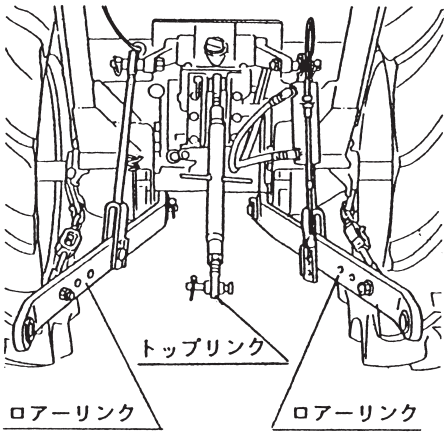


トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ）Sヒッチ（0・I形）

1　装着前の準備

1．トラクタの準備

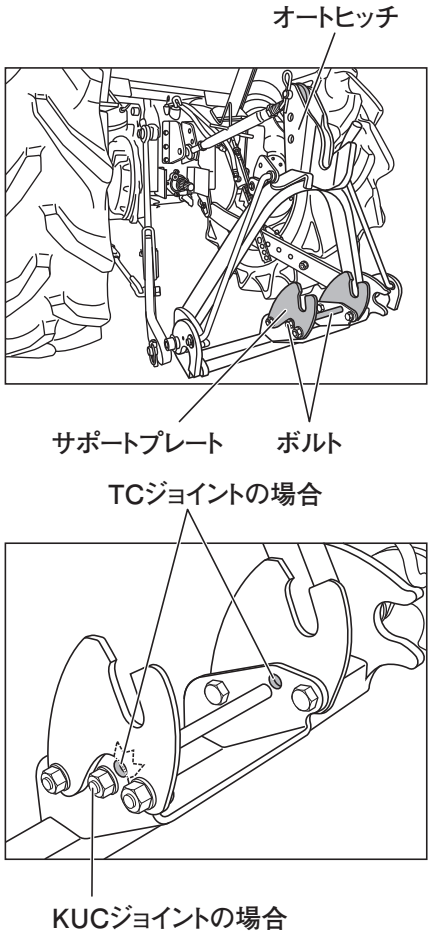
本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もし、トラクタに特殊3点リンク式のロータリを装着されている場合は、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか、取外してください。



3点リンクの取付位置は、本書のトラクタ別装着寸法表（P.58 ～ P.63）ページを参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2．オートヒッチアームの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、サポートバーが確実に取付けてあることを確認してください。
3セットの場合はサポートプレート、サポートバーがないことを確認してください。

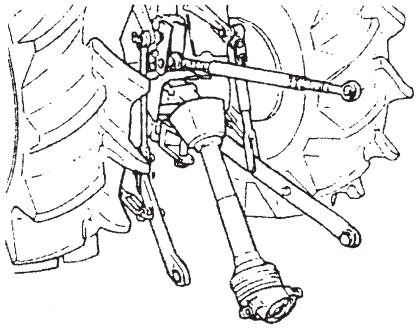


3．トラクタへのオートヒッチの取付け

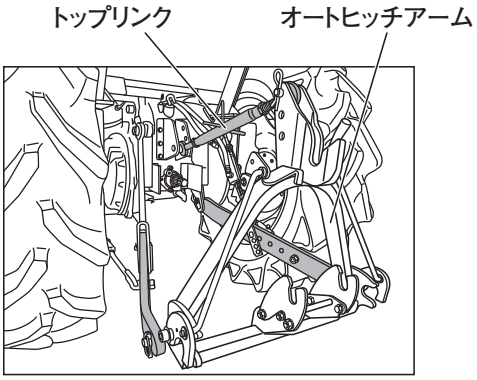
⚠ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又エンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

①トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。トラクタの PTO 軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。



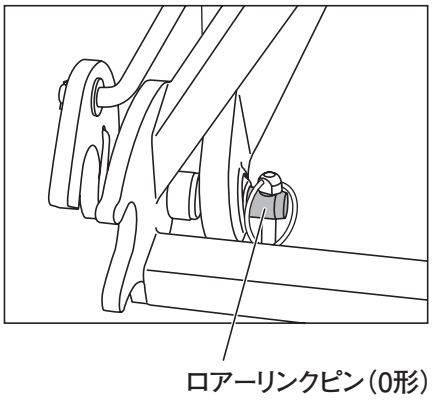
②オートヒッチを、トラクタのトップリンクに取り付けます。



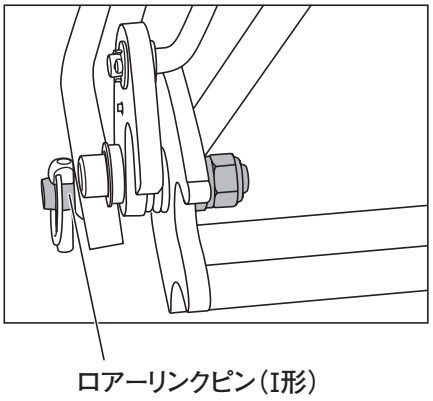
トップリンクピンはトラクタの付属品を使用してください。

③左右のロアーリンクにオートヒッチのロアーリンクピンを取り付けてください。トラクタの 3 点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS 0形…内側セット

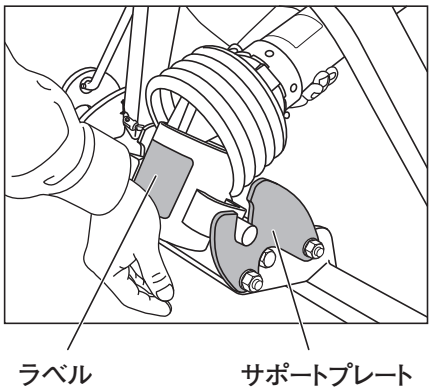


JIS Ⅰ形…外側セット

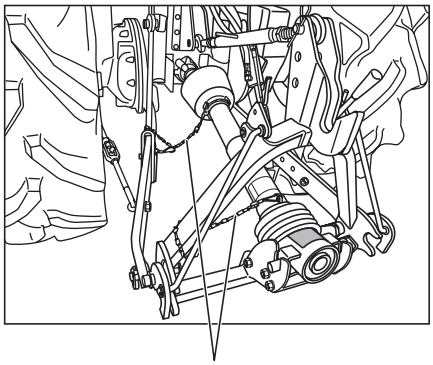


④トラクタの PTO 軸にジョイントの広角側を取付けます。

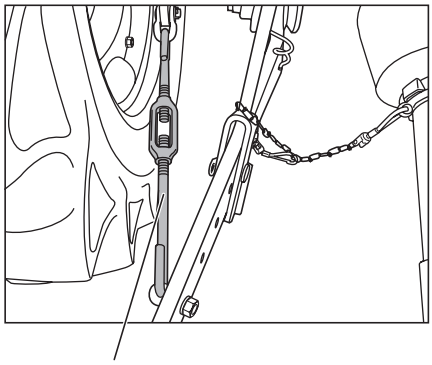
⑤ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。（4 セットのみ）



⑥ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



⑦チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。また、ロアーリンクに左右の高さも均等にしてください。



⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

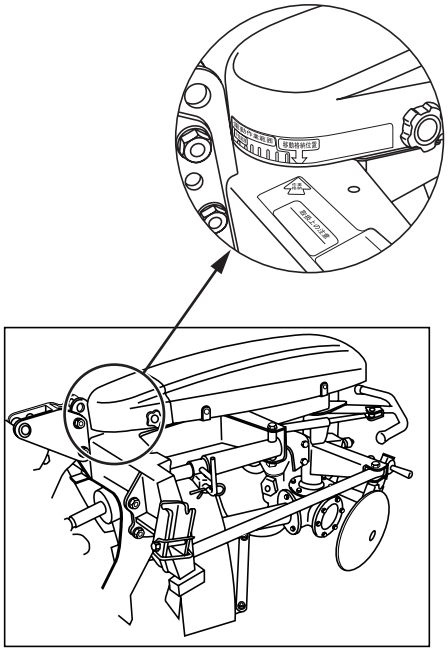
2 トラクタへの装着

⚠ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1. 作業機を格納位置に

作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてください。

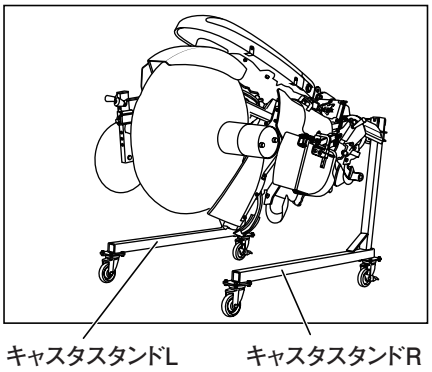


2. スタンドの取付け

作業機の中央フレーム両端のブラケットにキャスタスタンドを取付け、ロックピンで固定します。

⚠ 注意

スタンドの取付けは作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取り付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。

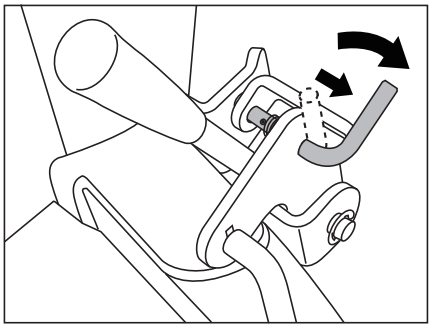


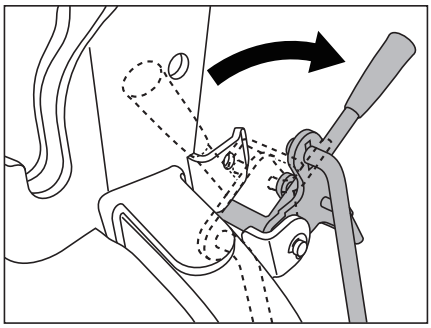
キャスタスタンドを取付けた状態で作業及びオフセットはしないでください。変形し機械を傷めます。

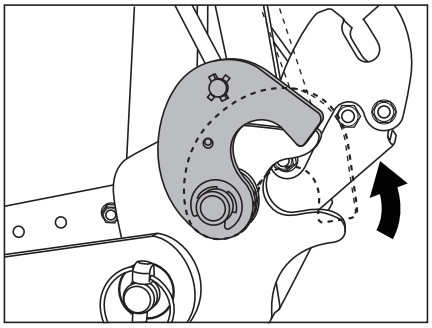
3．オートヒッチフックのロックの解除

装着前に、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。







⚠ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

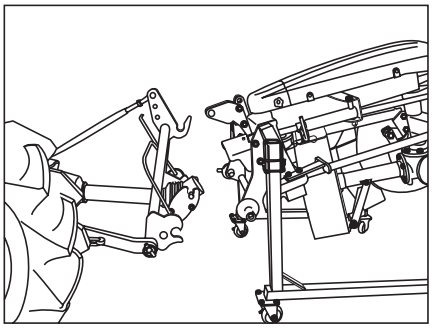
干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

4．取付け

バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

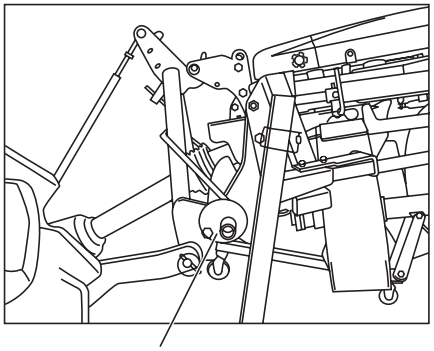
オートヒッチを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



5．フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのロアーフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

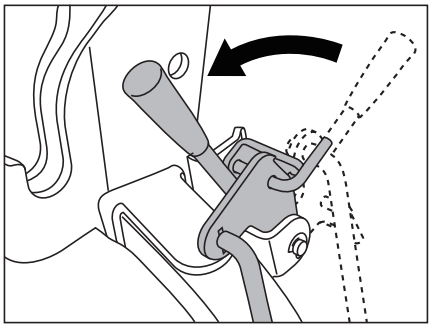
6．フックが確実にロックされたか確認してください。

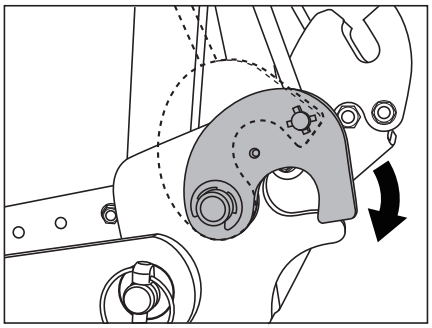


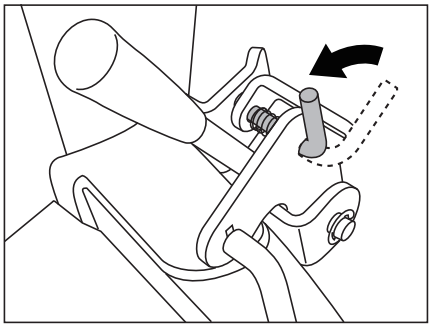
⚠ 注意

作業が終わって作業機を取り外すまでは、オートヒッチレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両方とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを作業機側に倒してフックを閉じます。
レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。

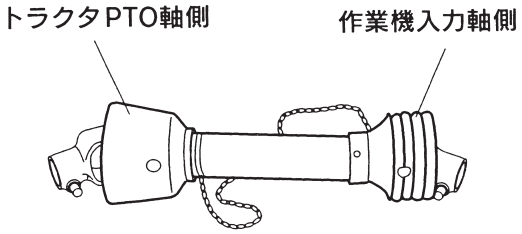




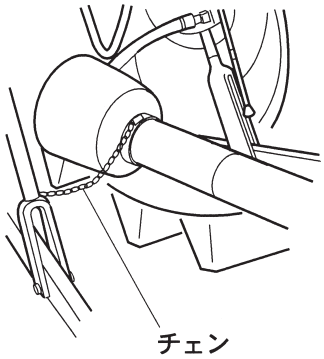


7．広角ジョイントの取付方法

3セットのときに、広角ジョイントを取付ける場合は、必ず、広角側をトラクタPTO軸に取付けてください。

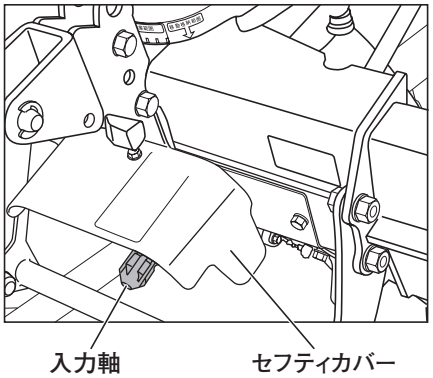


ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので必ず取付けたままで使用してください。

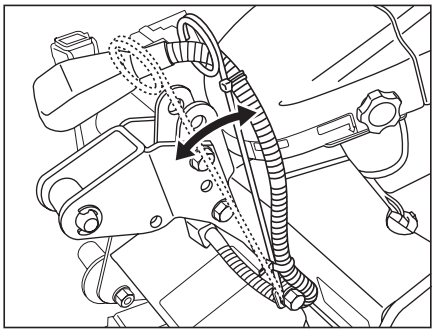


8．スタンドは取外してください。

スタンドを固定しているロックピンを抜き取り、スタンドを取り外してください。

取扱上の注意

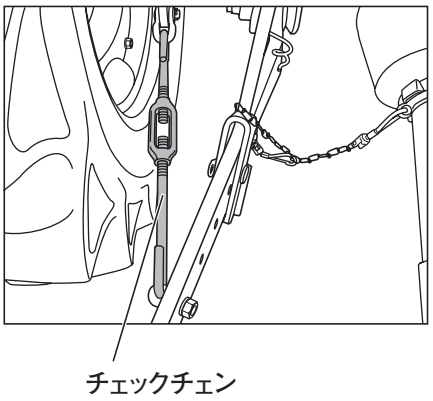
1. 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため 10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。
6. ワイヤホルダがトラクタに干渉する場合は、ボルトをゆるめ、ワイヤホルダの位置を調整し、トラクタに干渉しない位置でボルトを締めてください。(F 仕様のみ)



3 装着後のトラクタとの調整

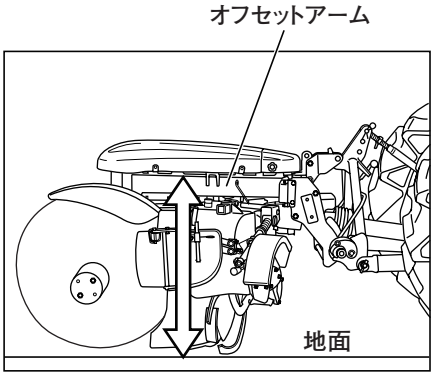
1. チェックチェンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが 10mm 以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



2. トップリンクの調整（前後の傾き）

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるようにトップリンクを調整してください。※水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。



⚠ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

ジョイントは作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱い上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストッパをセットしてください。

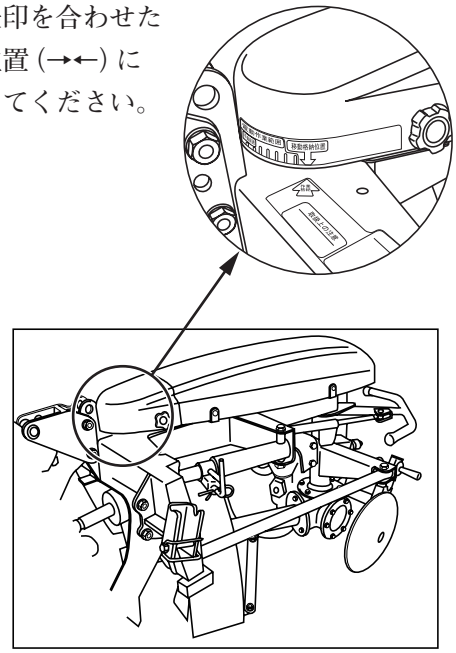
4 トラクタからの取外し

⚠ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。また、スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。
3. 作業機を格納する場合は、必ず転倒防止フックをキャスタスタンドLに取付けた状態にしてください。特にF仕様は外した状態で格納すると、シリンダが少量ずつ伸び、作業機が転倒するおそれがあります。
4. 誤作動により転倒防止フックが変形している場合、転倒防止フックを新品に交換してください。格納時には必ずフックがかかっていることを確認してください。

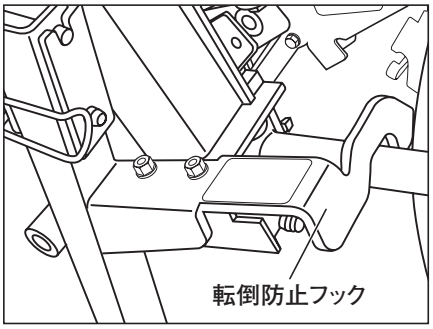
1. 作業機を格納位置に

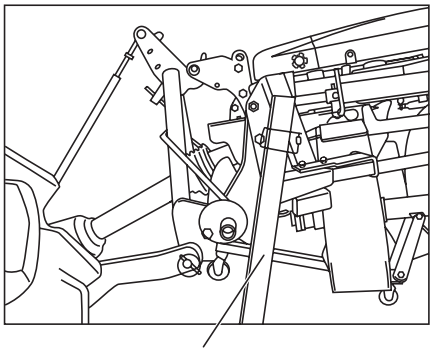
作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置（→←）にしてください。



2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、キャスタスタンドをロックピンで固定します。（装着時と同じ状態に取付けします。）

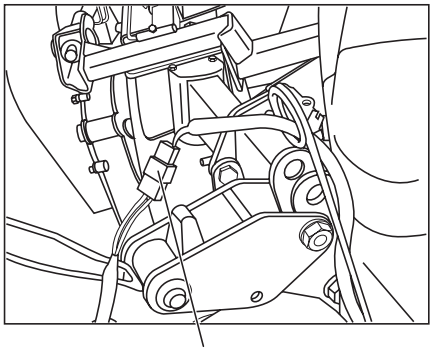




キャスタスタンド（L）（R）取付け

スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。

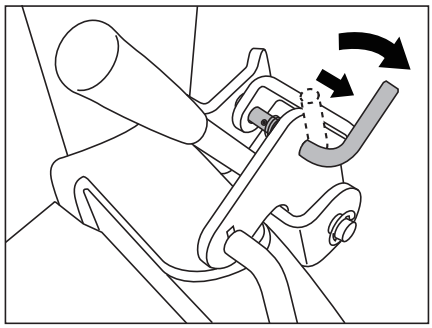
※F仕様の場合、スイッチハーネスと電源ハーネスのカプラを取り外して下さい。

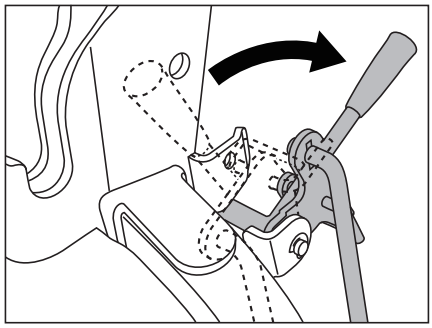


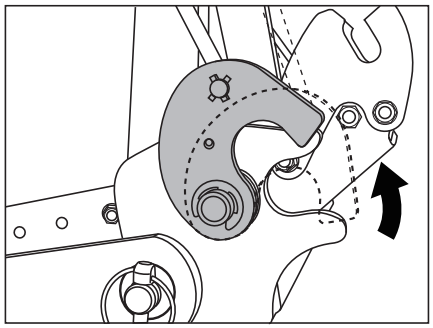
カプラ取外し

3．オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてから、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。
レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。





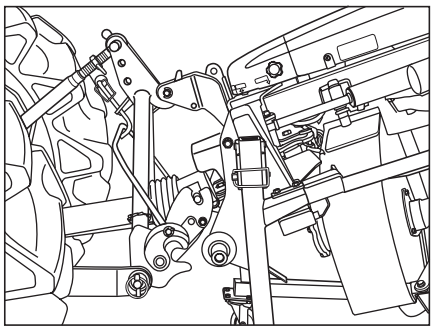


⚠ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。
干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

4．作業機を下げる

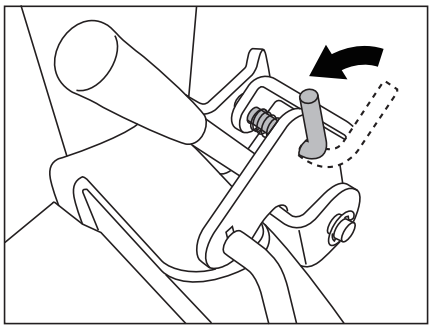
ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとロアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。



◆外れない場合は、場所が平坦でないか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度、動作をやり直してください。

⚠ 注意

トラクタから作業機を外し、オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



5．保管・格納

保管・格納時は転倒防止フックがかかっていることを確認してください。（P.22 参照）

⚠ 注意

1．キャスタスタンドは機械の保管及び格納時にのみ使用してください。トラック等での運搬に使用した場合、キャスタスタンド及び機体が破損する恐れがあります。
2．キャスタスタンドが曲がったまま使用するとバランスを崩し、作業機が転倒する恐れがあります。

トラクタへの装着（日農工特殊 3P ヒッチ）

（FR751C(B)-S、FR751C(B)-T、FR751C(B)-U、FR851C-S、FR851C-T、FT851C-U）
（FR751F(B)-S、FR751F(B)-T、FR751F(B)-U、FR851F-S、FR851F-T、FR851F-U）

いずれの型式も、トラクタに装着されている純正ロータリと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

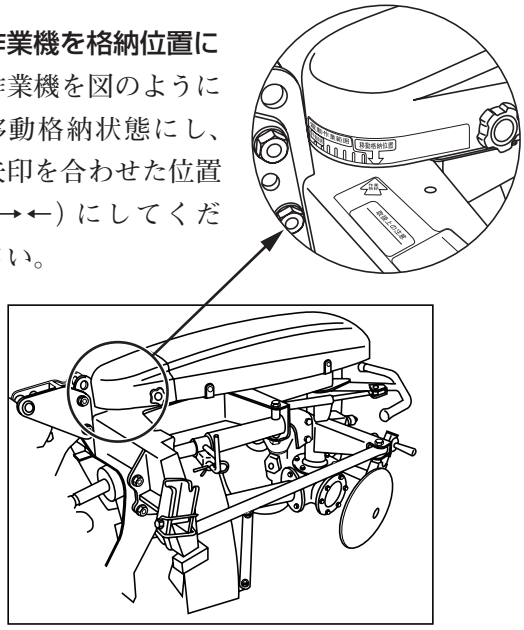
1　トラクタへの装着

⚠ 注意

1．平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2．夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3．トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4．二人作業の場合は互いに合図しあい注意して作業してください。

1．作業機を格納位置に

作業機を図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置（→←）にしてください。



2．トラクタの準備

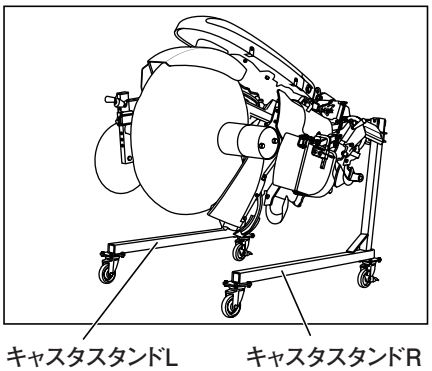
ロアーリンク、リフトロッドは、純正ロータリと同じ位置特 3P)で装着できますので、ロータリを外し、そのままアゼローターの脱着ができます。

3．スタンドの取付け

⚠ 注意

スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

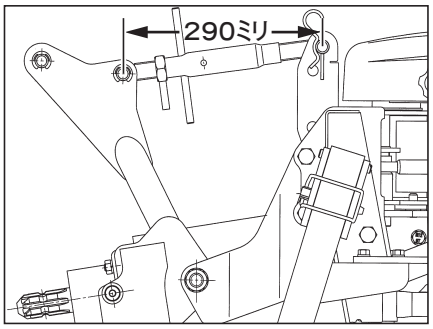
作業機の中央フレーム両端のブラケットにスタンドを取付け、ロックピンで固定します。



キャスタスタンドを取付けた状態で作業及びオフセットはしないでください。変形し機械を傷めます。

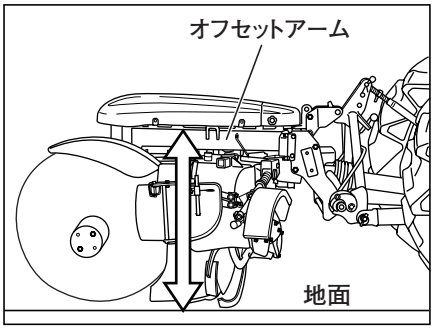
4．作業機を装着姿勢に

入力軸を前傾にし、装着しやすいようにターンバックルの長さを調整してください。(出荷時 290 ミリ～ 315 ミリ:機種によって異なる)



5．トラクタへの装着

トラクタにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクタ及び、純正ロータリの取扱説明書に従って装着してください。装着後にスタンドを取外してください。作業機を接地させ、オフセットアームが水平になるようにターンバックルを調整してください。



⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

※水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。

取扱上の注意

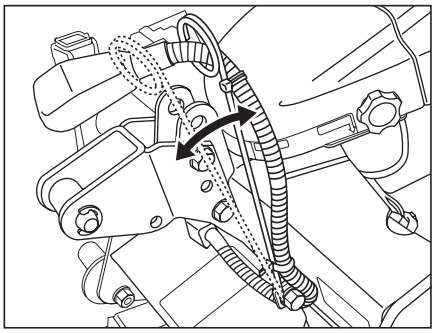
1．最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面ガラスを割らないように注意してください。

2．トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますすが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため 10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

3．トップリンクやロアーリンクの取付穴位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。

4．左右の水平調節についても注意してください。

5．ワイヤホルダがトラクタに干渉する場合は、ボルトをゆるめ、ワイヤホルダの位置を調整し、トラクタに干渉しない位置でボルトをしめてください。(F 仕様のみ)



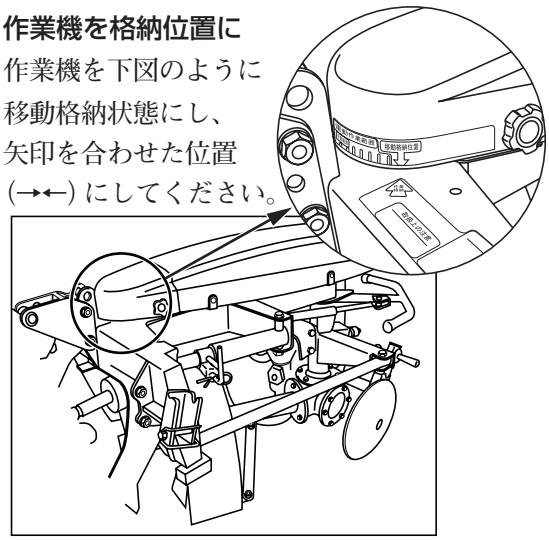
2 トラクタからの取外し

⚠ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。また、スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。
3. 作業機を格納する場合は、必ず転倒防止フックをキャスタスタンドLに取付けた状態にしてください。特にF仕様は外した状態で格納すると、シリンダが少量ずつ伸び、作業機が転倒するおそれがあります。
4. 誤作動により転倒防止フックが変形している場合、転倒防止フックを新品に交換してください。格納時には必ずフックがかかっていることを確認してください。

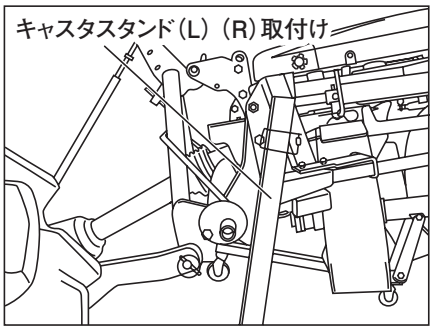
1. 作業機を格納位置に

作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてください。



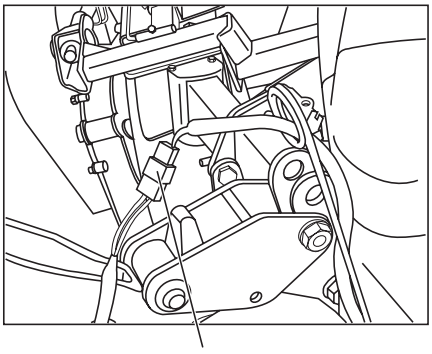
2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、キャスタスタンドをロックピンで固定します。(装着時と同じ状態に取付けします。)



スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。

※F仕様の場合、スイッチハーネスと電源ハーネスのカプラを取り外して下さい。



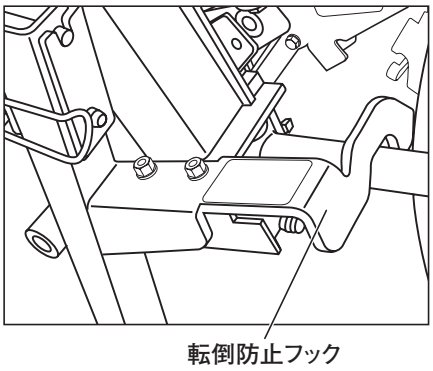
3. 取　外　し

純正ロータリの取扱説明書に従い同様な手順で取り外してください。

※F使用の場合、スイッチハーネスと電源ハーネスのカプラを取り外してください。

4. 保管・格納

保管・格納時は転倒防止フックがかかっていることを確認してください。(P.22 参照)



⚠ 注意

1. キャスタスタンドは機械の保管及び格納時にのみ使用してください。トラック等での運搬に使用した場合、キャスタスタンド及び機体が破損する恐れがあります。
2. キャスタスタンドが曲がったまま使用するとバランスを崩し、作業機が転倒する恐れがあります。

フロントウエイトの装着

アゼローターはオフセット作業機です。トラクタ型式及び装着方式によりフロントウエイトが必要になります。必ず、必要枚数、および重量をご確認の上、ご購入先にご相談ください。

フロントウエイト必要枚数（ロプス仕様は、下記数量より１枚追加してください。）

トラクタ形式 ＼ 装着方式		ウエイト必要枚数	
		トラクタ側:W3P 作業機側:B(U)	左記以外の装着方式
KL	2750, 2850PC	25kg×2	25kg×1
	3150, 3450, 3450PC	25kg×2	不　要
	3950, 4350, 4350PC	不　要	不　要

トラクタ形式 ＼ 装着方式		ウエイト必要枚数	
		トラクタ側:特3P 作業機側:A2(T)	左記以外の装着方式
EF	328V, 326V	不　要	不　要
	330V, 334V	—	不　要
	338V, 342V	—	不　要
EG	437, 445	—	不　要
US	301, 361	—	不　要
	401	—	不　要

トラクタ形式 ＼ 装着方式		ウエイト必要枚数	
		トラクタ側:特3P 作業機側:A1(S)	左記以外の装着方式
AT (K)	ATK250, AT260	15kg×3	15kg×2
	AT280, 310, 340, ATK340, AT340C, ATK340C	15kg×1	不　要
	AT370, 410, ATK430	—	不　要

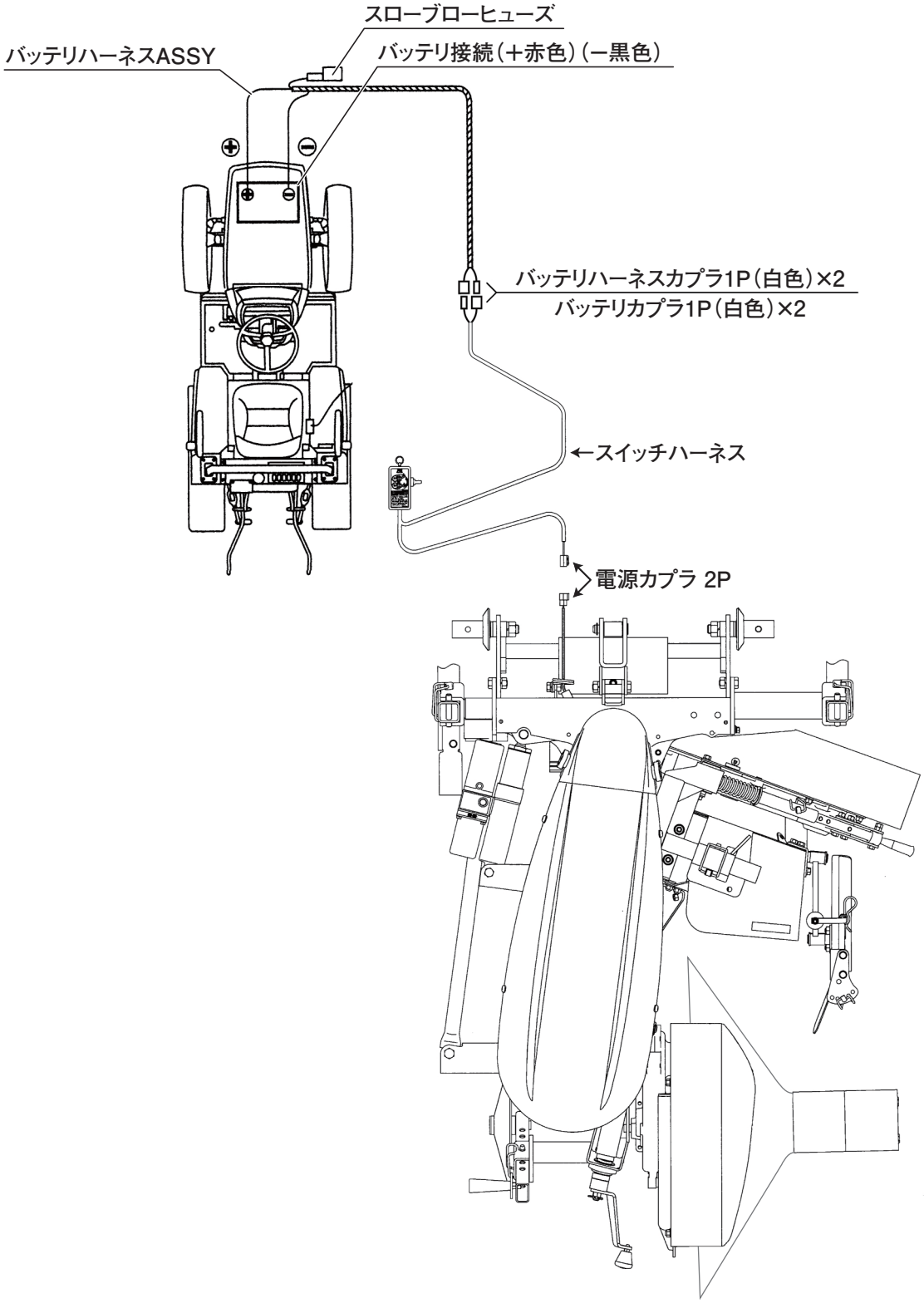
トラクタ形式 ＼ 装着方式		ウエイト必要枚数	
		トラクタ側:特3P 作業機側:A2(T)	左記以外の装着方式
GJ	GJ27, 30	—	30kg×4
GO	GO260, 280, 300, 320, 340	30kg×3	30kg×2
	GO340K, 300K	—	30kg×2
GX	370	—	不　要
	400	—	不　要

⚠ 警告

1. トラクタ後部に作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる加重が総重量の25%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。
2. 前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります（詳細は購入先にご相談ください）。

トラクタへの電源接続と配線（F 仕様のみ）

FR751F，FR851F



スイッチハーネスの取付け及び接続（F 仕様のみ）

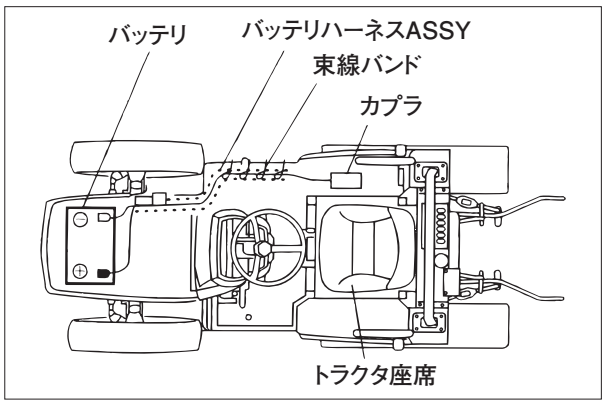
⚠ 警告

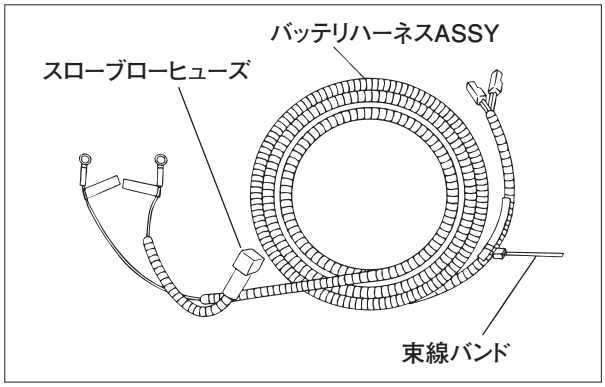
バッテリハーネス ASSY をバッテリに接続するときは、(＋)(－)に注意してください。(＋)(－) を逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

⚠ 注意

1. バッテリハーネス ASSY、スイッチハーネスが損傷している場合は、絶対に使用しないでください。(守らないとショートする恐れがあります)
2. 接続できるバッテリ電圧は 12V です。他の 6V、24V 等のバッテリには絶対に接続しないでください。故障の原因になる恐れがあります。
3. ぬれた手でバッテリや接続部に触れないでください。感電する恐れがあります。
4. バッテリ(＋)端子への取付け及び取外し作業は、(－)側ケーブルがバッテリターミナルから取り外されていることを確認した上で行ってください。
   守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合ショートし危険です。
5. バッテリハーネス ASSY の取付けおよび取外し手順は必ず取扱説明書通りに確実に行ってください。守らないとショートする恐れがあり大変危険です。
6. バッテリ上がり及び誤作動防止のため作業終了時は本機マスト付近にある電源カプラ 2P を必ず外してください。
7. 長期間使用しないときは、必ずトラクタのバッテリからバッテリハーネス ASSY、スイッチハーネスを取外して屋内に保管してください。守らないとハーネスを損傷したり、ショートする恐れがあります。

1. バッテリへの取付け





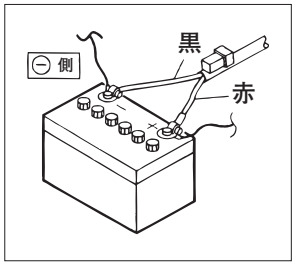
①トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。

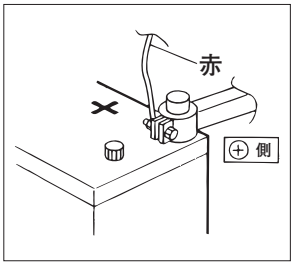
②バッテリに取り付けられているアース側の(－)側ケーブルをターミナルから取外してください。

③バッテリハーネス ASSY の(＋)側(赤色線)丸端子を、バッテリの(＋)側ターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。

④アース側の(－)ケーブルをバッテリの(－)側ターミナルに取付け、バッテリハーネス ASSY の(－)側(黒色線)丸端子を、バッテリの(－)側ターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。

（＋）側詳細図

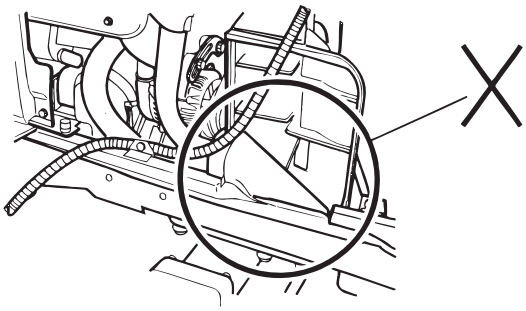




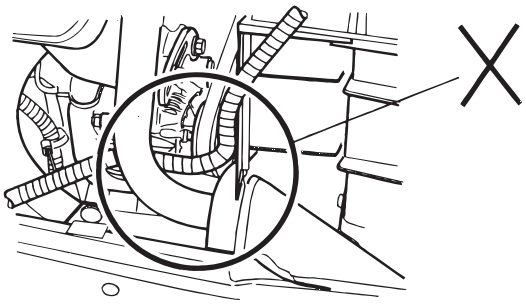
⑤ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクタに固定してください。
特にスイッチハーネス側のコネクタ付近は、複数箇所固定してください。

⚠ 注意

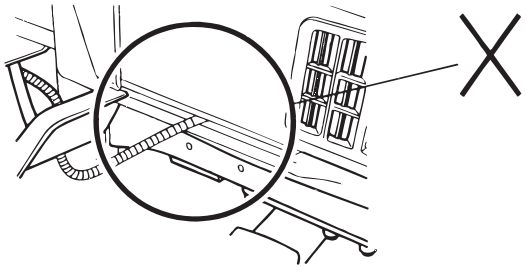
1. トラクタの高温部箇所（マフラ等）には、バッテリハーネス ASSY を取付けないでください。高温でバッテリハーネス ASSY が溶けて危険です。



2. 回転物（ファンベルト、冷却ファン等）や可動するものに接触しないように取付けてください。バッテリハーネス ASSY が切れてショートする恐れがあります。

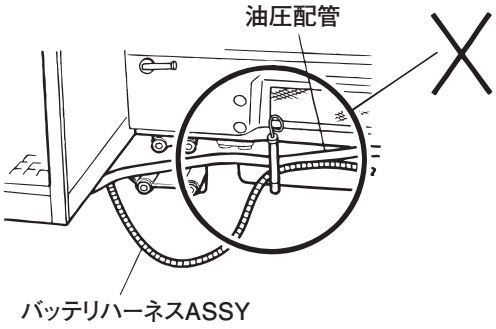


3. バッテリハーネス ASSY が鋭利なものに接触したり、カバー、シート、キャビンのドア等に挟み込まれないように取付けてください。ハーネスの被覆がはがれて危険です。

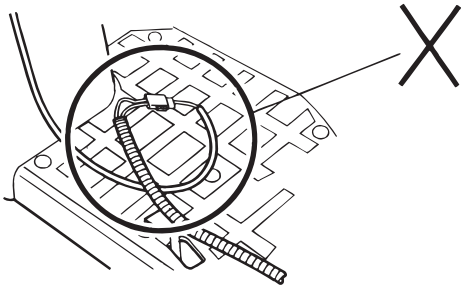


4. トラクタフレームの下側にバッテリハーネス ASSY が垂れ下がった状態にしないでください。障害物に引っかかりショートする恐れがあります。

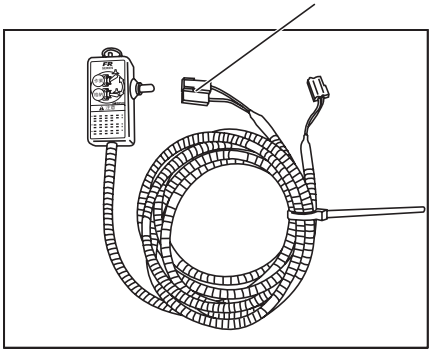
5. 油圧配管にバッテリハーネス ASSY を固定しないでください。



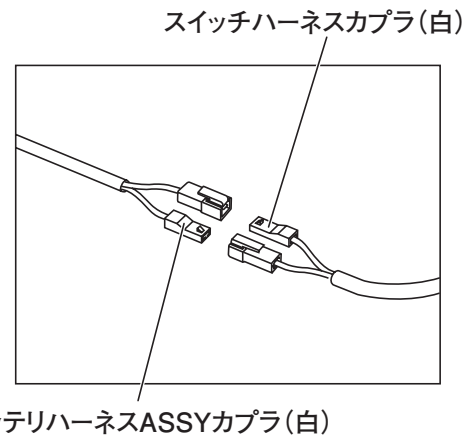
6. トラクタ可動部にバッテリハーネス ASSY を固定しないでください。
7. 運転席の足元でバッテリハーネス ASSY がたるまないように固定してください。
たるんでいると足に引っかかりショートする恐れがあります。
ハーネス部及びカプラ部は足で直接踏み付けられるような場所に配線しないでください。また、カプラ付近での固定を確実に行ってください。



⑥バッテリハーネス ASSY のカプラをスイッチハーネスのカプラに取付けてください。



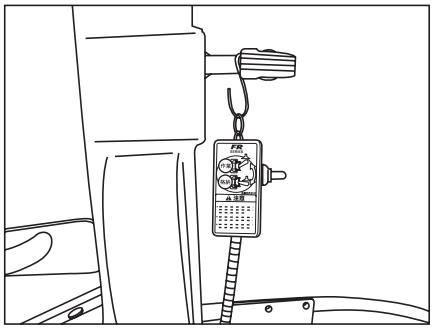
スイッチハーネス



※なおバッテリハーネス ASSY でバッテリまで届かない場合は、延長ハーネスキット B を使用してください。
（オプション＝品目コード 7662496 長さ：1.5m）

1．スイッチハーネスの取付け

・スイッチハーネスはフックや紐などでトラクタ内の操作しやすい位置に取付けてください。



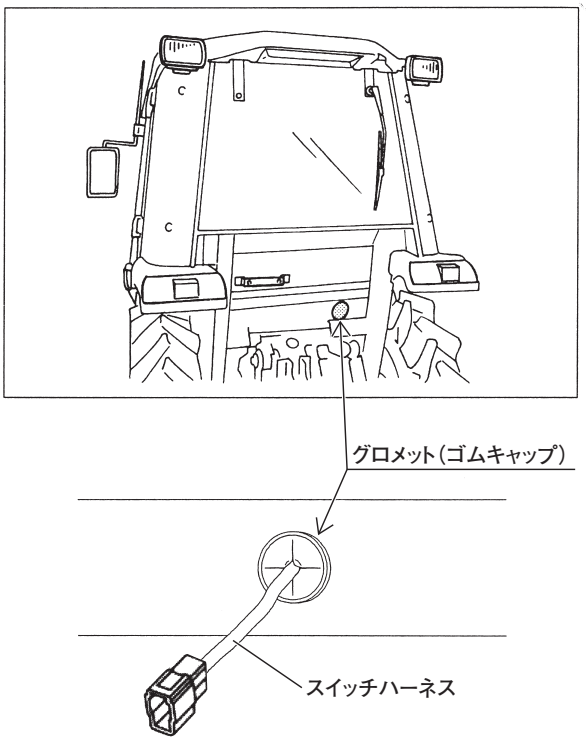
2．電源コードの接続

取扱い上の注意

電源は必ずバッテリハーネス ASSY を使用し接続してください（トラクタ側の外部取り出し電源を使用するとトラクタ側のヒューズが切れます）。

3．ハーネス取出し

スイッチハーネスのカプラをトラクタ後部のケーブル取出し穴から引き出してください。

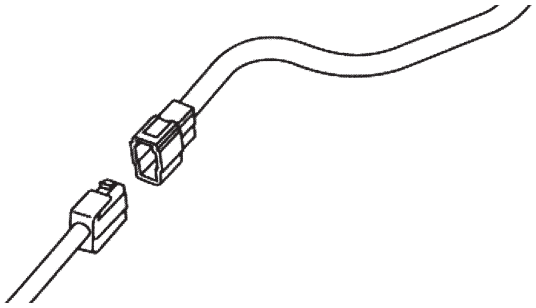


⚠ 注意

スイッチハーネスをトラクタ後部のケーブル取出し穴に通す場合、必ずグロメット（ゴムキャップ）の中を通してください。
グロメットがふさがれている場合はカッター等で切り、その中を通してください。
グロメットを外してケーブルを通すとケーブルが鋭利なコーナーで切断され、ショートする場合があります。

4．電源カプラの接続

トラクタから引出したスイッチハーネスの電源カプラ 2P（白）と、作業機のマスト付近にある電源ハーネスのカプラ接続して下さい。



取扱上の注意

配線後はアゼローターを上下させてハーネス(コード)が引っ張られたり、ジョイントやタイヤ等に接触しないか確認してください。

5．バッテリからの取外し

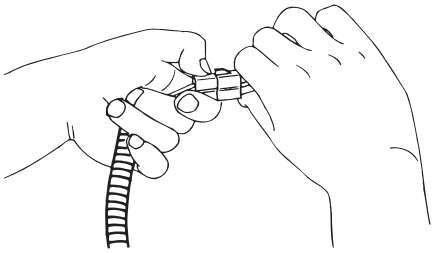
取扱上の注意

スイッチハーネスへの配線は必ず外してから行ってください。誤作動故障の原因になります。

①トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。

⚠ 注意

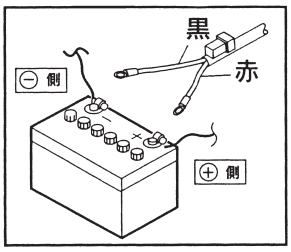
カプラを取外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取外してください。この時、絶対に配線を引っ張って取外さないでください。守らないとカプラが破損し、端子が剥き出しになりショートして危険です。

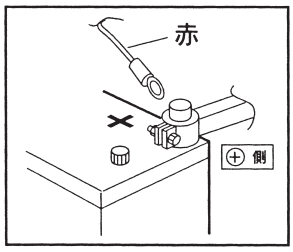


②バッテリに取付けられているアース側の(−)側ケーブルをターミナルから取外してください。

③バッテリハーネス ASSY の(+)側(赤色線)丸端子を、バッテリの(+)側ケーブルから取外した後、ネジを元通りに確実に締め付けてください。

(+) 側詳細図

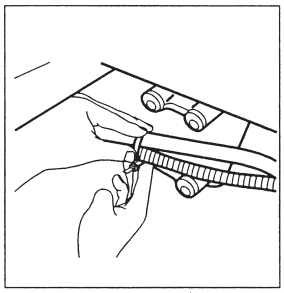


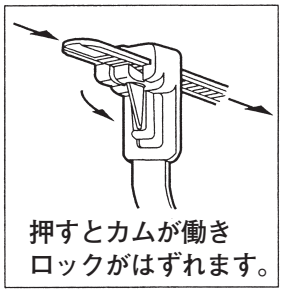


④バッテリハーネス ASSY の(−)側(黒色線)丸端子をバッテリの(−)側ケーブルから取外してください。

⑤アース側の(−)ケーブルをバッテリの(−)側ターミナルに取付けた後、ネジが確実に締まっていることを確認してください。

⑥束線バンドを取外してから、バッテリハーネス ASSY を取外してください。





※ハサミ等で切らないでください。

⑦取外した部品は、安全な場所に大切に保管してください。

6．スローブローヒューズについて

・スローブローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
・もし切れた場合は、すみやかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
・交換する時は、必ず純正部品を使用してください。(品目コード：7662494，部品名：スローブローヒューズ　規格 60A)
・ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止した上で行ってください。
・交換後は元通りにカバーを閉じてください。

7．格納

作業終了時はスイッチハーネスのカプラと電源ハーネスのカプラを取り外してください。スイッチハーネスのカプラは水が掛かったり、ショートしないようにトラクタ内に引き込んで保護してください。長期に渡り使用しない時はバッテリハーネス ASSY、スイッチハーネスをトラクタから外して屋内で保管してください。

作業前の点検

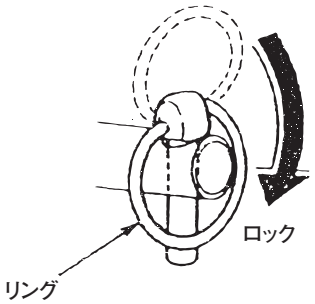
作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1　各部のボルト・ナットのゆるみ

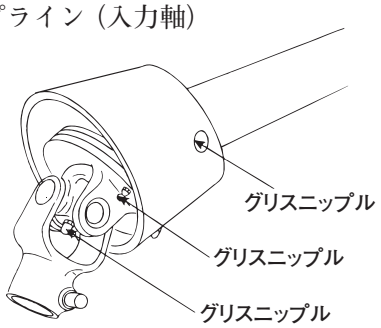
各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用１時間で点検を行ってください。又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。

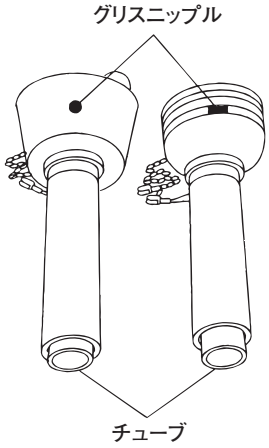


2　ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

①グリスニップル
②チューブ
③スプライン（入力軸）





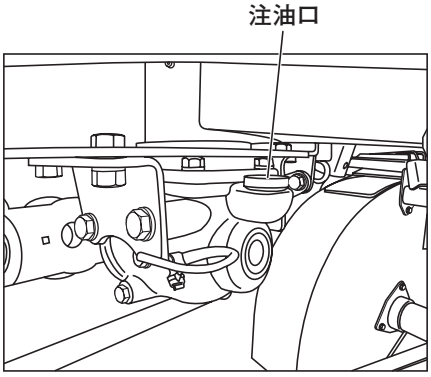
⚠ 危険

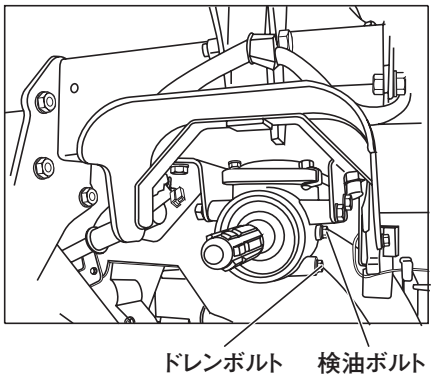
セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

3　ギヤケースのオイル量

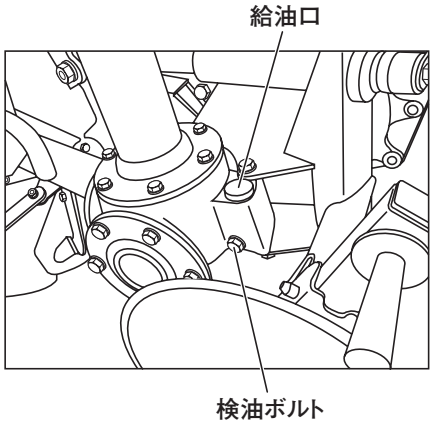
フロントギヤケース、リヤギヤケースの検油ボルトをゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。（ギヤオイル＃90）
（機体を水平にした状態で確認ください）

（1）フロントギヤケース（0.3L）





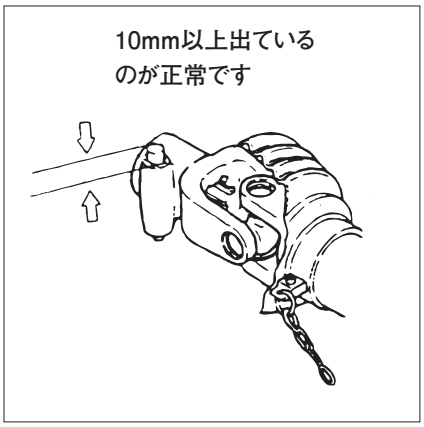
（2）リヤギヤケース（0.9L）



オイル量の点検は、アゼローターを水平にして行ってください。

4　ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「**頭が 10mm 以上**」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。

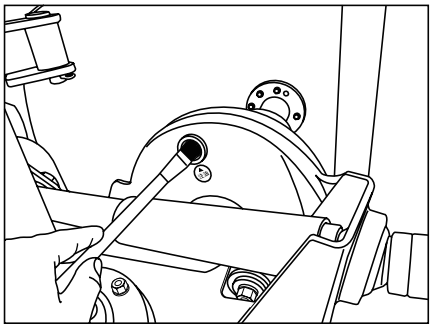


5　チェンへの注油

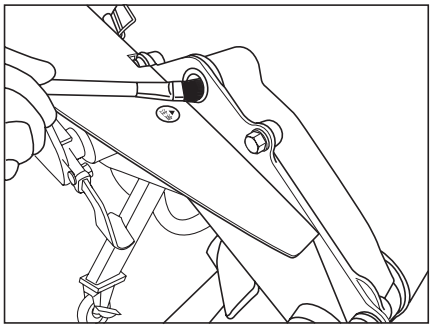
（油溜式でない為、オイルを入れると漏れ出します。注意して下さい。）

ドラムチェンケース及びテンバチェンカバーのキャップを外し、注油口よりチェンへオイルまたはグリスを直接塗布もしくは噴霧してください。オフセットチェンはチェンカバー（前）を外して注油してください。

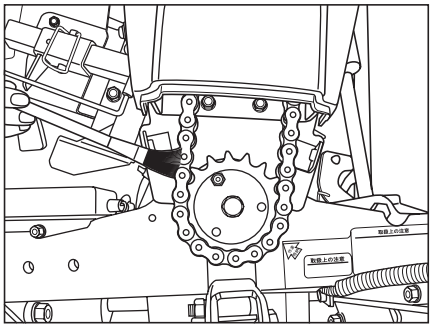
（1）ドラムチェン



（2）テンバチェン



（3）オフセットチェン



オフセットチェンカバーを外した状態

⚠ 警告

1. 作業機を回転させながら注油しないでください。事故につながる恐れがあります。
2. 注油後はオフセットチェンカバーを必ず装着してください。外したままにするとケガをする恐れがあります。

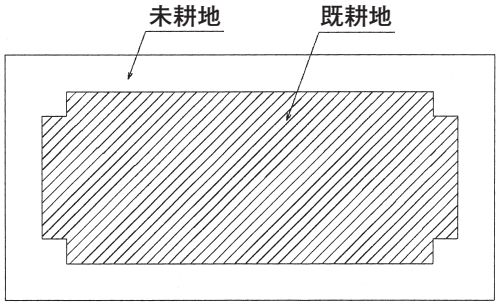
6　空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を 5 ～ 10 分行ってください。

圃場の準備

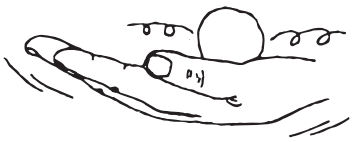
1. 仕上がりの良い畦を塗るため、畦草、飛散ワラを取り除いてください。また、石等の障害物がありましたら機械が傷み、故障、事故の原因となりますので、取り除いてください。

2. 圃場は耕うんしないでください。耕うんするとトラクタが沈み込み直進性、旋回性が悪くなります。また、土量が減り、堅い畦が出来にくくなります(特に畦際が片培土された状態)。耕うんする場合は、下図のように、直進部はトラクタ後輪外幅、角部はトラクタ旋回直径幅を残してください。



3. トラクタの車輪（ラグ）跡がつくか、土を丸めて手のひらで転がしても崩れない程度が良い畦がつくれます。

土を握って土塊をつくる



手のひらでころがしても崩れない程度

4. 雑草、ワラ、石などは出来るだけ処理してください。(特に圃場の角付近)

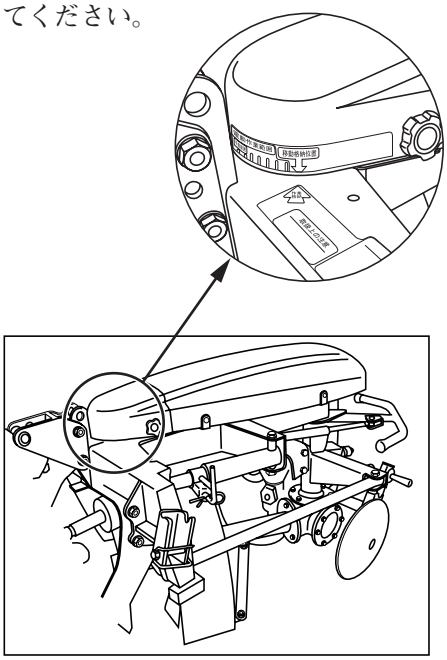
5. 圃場に水が溜まっている時は、水を落として適度の湿りになるまで、乾かしてから作業を行ってください。

6. 畦を築いた後で雨が降ると畦が柔らかくなり崩れる恐れがありますので、作業を行う際は天候に十分注意して行ってください。

7. 重粘土質で水分の多い圃場、または極端に水分が少ない圃場、極度の砂質では畦づくりが難しい、もしくは出来ません。

移動、圃場への出入り

1. 圃場への出入り及び、移動（格納）する場合は、必ず作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてから行ってください。



⚠ 警告

転倒事故を防ぐために以下の内容を必ず守ってください。

1. 移動の際は必ず作業機が移動格納状態（上図参照）になっていることを確認して移動してください。
2. 移動の際は作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、左右のブレーキを連結し、チェックチェンが張れていることを確認してください。
3. トラックへの積み込みや急な坂では、トラクタの前輪が浮き上がり、ハンドルが利かず大変危険です。必ず指定されたフロントウエイト（P27）を装着して、トラクタの取扱説明書に沿って走行してください。
4. 前後、左右に気を配り、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 圃場に入るときは、必ず速度を下げて畦や段差に対して直角に進んでください。畦が高い時は丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。
6. 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは路肩に注意してください。

⚠ 注意

1. 圃場に入るときは、必ず前進、低速で畦や段差に対して直角に進んでください。
2. 傾斜している圃場からでるときはバックで上がるか、丈夫なアユミ板を使用してください。
3. 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。アゼローターを低くして重心を下げ、直角に進んでください。
4. アゼローターを下げて前進しますと前輪が浮き上がりにくくなります。常に前・後輪のバランスを考えながら移動、圃場への出入りに注意しながらトラクタ操作をしてください。
5. 移動時にはトラクタのPTOを「切り」ニュートラルにしてアゼローターの回転を止めて走ってください。

前進作業状態のセットの仕方（手動式）

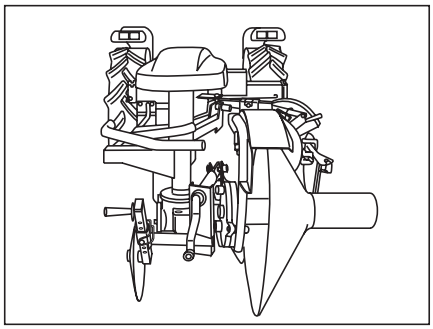
FR750C・FR850C

1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合

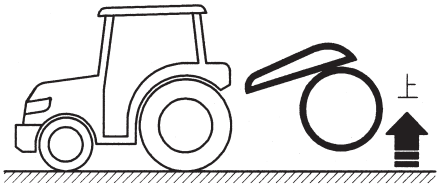
⚠ 注意

オフセット操作は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、またエンジンを停止していることを確認してから作業を行ってください。

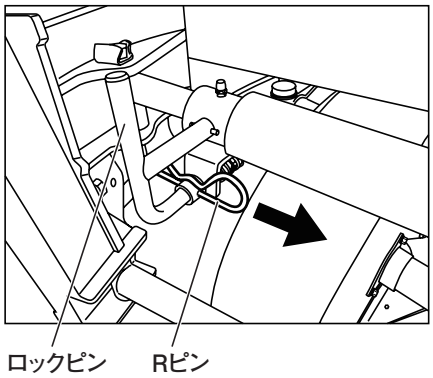
トラクタ装着時、アゼローターは下図のように移動・格納状態になっています。

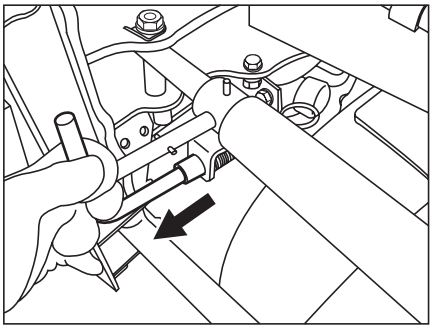


① 軽い力で安全に操作できるまで油圧を上げ、徐々に機体重心を高くしてください。その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。

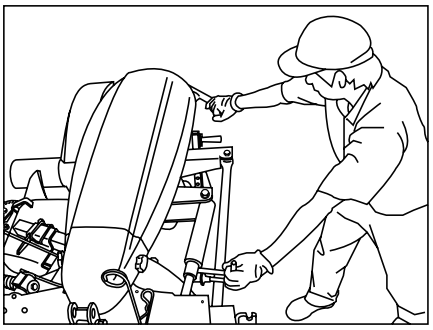


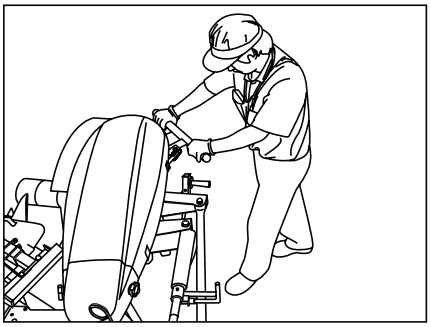
② ロックピンからＲピンを外し、左手でロックピンを解除してください（ロックピンが抜けにくい場合は、右手でレバーを持ち作業機を左右に動かしながらロックピンを引いてください）。



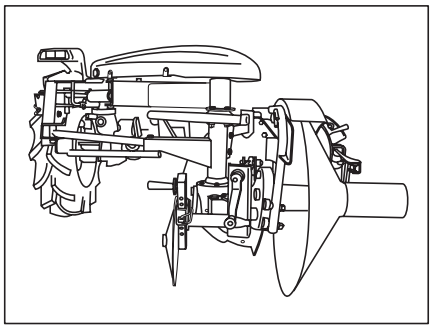


③ ロックピンを解除した状態で右手でレバーを押し、ロックピンが完全に解除になった状態から両手でレバーを押し、作業機を平行移動させます。その際、スライドロッドにロックピンがロックされるまで押してください。平行移動が重くロックピンがロックできない場合は、トラクタの油圧を上げて、作業機に角度をつけると入りやすくなります。

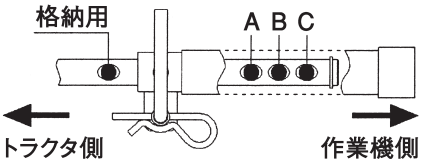




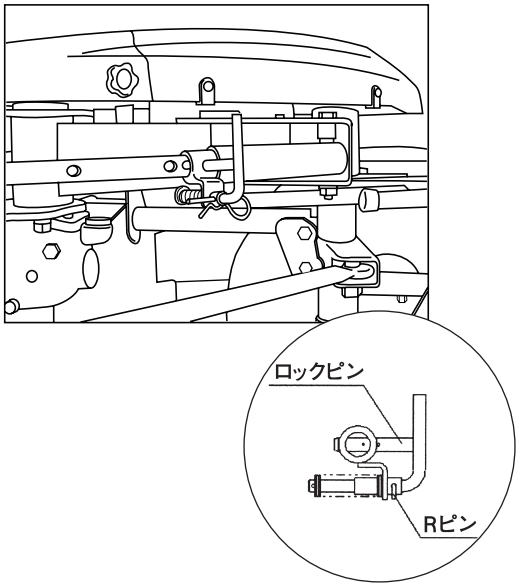
④ 作業位置は3段階で調節できます(下表参照)。トラクタの後輪幅に応じて調節を行ってください。スライドロッドの穴位置をB、Cにするには②、③作業を繰り返し行い、作業位置を調整して下さい。



後輪軸(外幅)	穴位置
～135cm	A
～155cm	B
～170cm	C



⑤ スライドロッドにロックピンが完全にロックしているか確認し、ロックピンにRピンを差し込んでください。



⚠ 注意

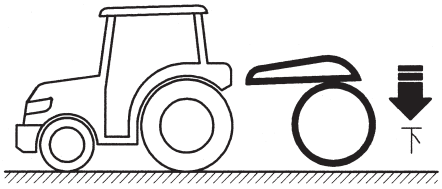
1. 操作時には、必ず周囲に人がいないか確認してから行ってください。事故につながる恐れがあります。
2. オフセット操作は、必ずキャスタスタンドを取り外してから行ってください。キャスタスタンドを装着したまま操作及び畦塗り作業をすると機械が損傷します。
3. 地上高が高い場合は、作業機が急に平行移動する恐れがあります。
4. 作業時、移動時ともにロックピンにRピンを差し込んで、ロックピンが固定されているのを確認してください。
5. オフセット操作時は必ずレバーを持って作業をしてください。レバー以外を持って作業を行うと挟み込まれる恐れがあります。

2 前進作業状態から格納状態にする場合

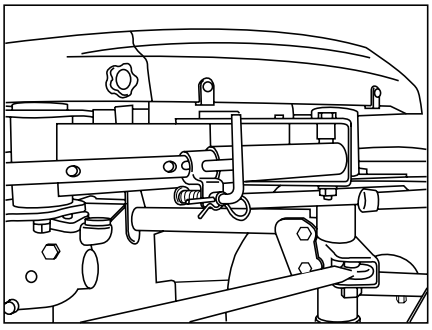
⚠ 注意

オフセット操作は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、またエンジンを停止していることを確認してから作業を行ってください。

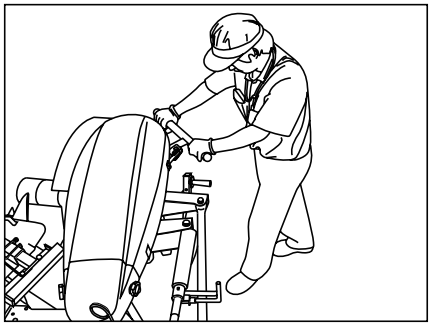
① 軽い力で操作できるまで油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。

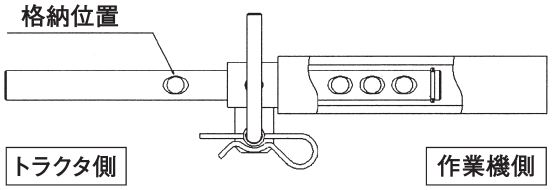


② ロックピンからRピンを外し、左手でロックピンを解除してください(ロックピンが抜けにくい場合は、右手でレバーを持ち作業機を左右に動かしながらロックピンを引いてください)。

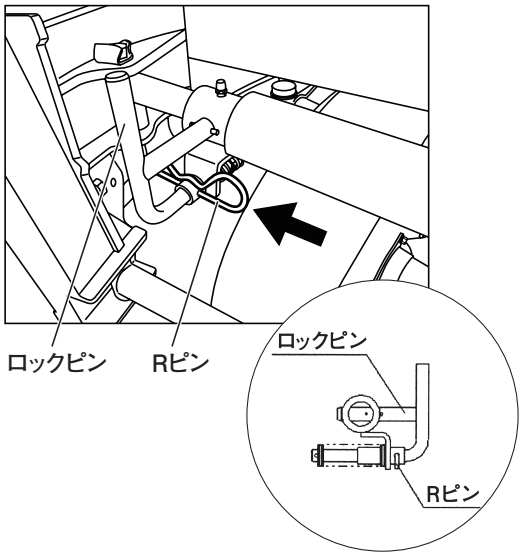


③ ロックピンを解除した状態で右手でレバーを押し、ロックピンが完全に解除になった状態から両手でレバーを引き、作業機を平行移動させます。スライドロッドの格納状態にロックピンがロックされるまで引いてください。





④ スライドロッドにロックピンが完全にロックされているか確認し、ロックピンにＲピンを差し込んでください。



⚠ 注意

1. 操作時には、必ず周囲に人がいないか確認してから行ってください。事故につながる恐れがあります。
2. オフセット操作は、必ずキャスタスタンドを取り外してから行ってください。キャスタスタンドを装着したまま操作及び畦塗り作業をすると機械が損傷します。
3. 地上高が高い場合は、作業機が急に平行移動する恐れがあります。
4. 作業時、移動時ともにロックピンにＲピンを差し込んで、ロックピンが固定されているのを確認してください。
5. オフセット操作時は必ずレバーを持って作業をしてください。レバー以外を持って作業を行うと挟み込まれる恐れがあります。

前進作業状態のセットの仕方（電動式）

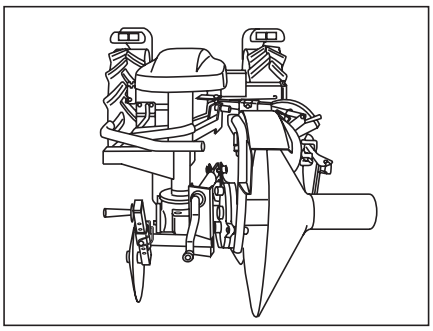
FR750F・FR850F

1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合

⚠ 注意

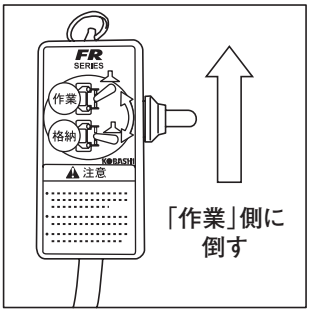
オフセット操作は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、またシフトレバーをニュートラルにしていることを確認してから作業を行ってください。

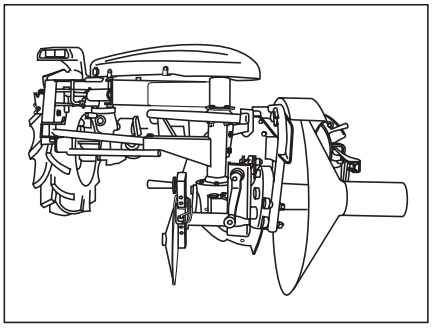
トラクタ装着時、アゼローターは下図のように移動・格納状態になっています。



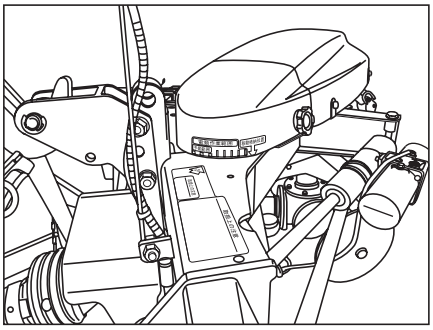
① 油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを 20cm 程度確保してください。

② スイッチを「作業」側に倒すとアゼローターが平行移動して前進作業状態になります。





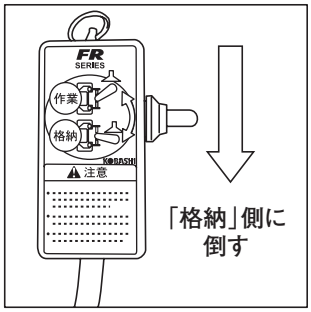
③ 前進作業は、チェンカバーラベルの「前進作業範囲」で行ってください。矢印と目盛りを合わせると同じ位置で作業ができます。

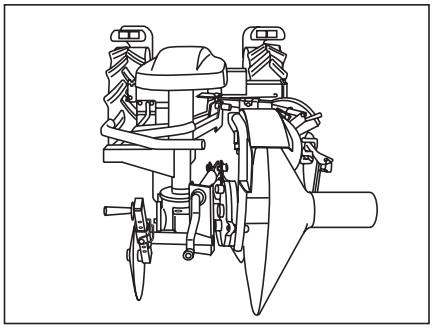


2 前進作業状態から格納状態にする場合

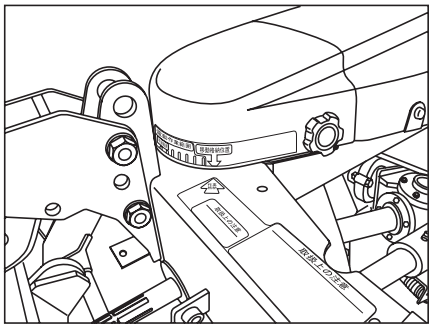
① 油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを 20cm 程度確保してください。

② スイッチを「格納」側に倒すとアゼローターが平行移動して格納状態になります。





③ 格納状態は、チェンカバーラベルの「移動格納位置」に矢印を合わせてください。



⚠ 注意

1. 操作時には、必ず周囲に人がいないか確認してから行ってください。事故につながる恐れがあります。
2. オフセット操作は、必ずキャスタスタンドを取り外してから行ってください。キャスタスタンドを装着したまま操作及び畦塗り作業をすると機械が損傷します。

畦塗り作業の仕方

⚠ 警告

1. 作業中は大変危険ですから、トラクタ及び作業機の周辺には、補助作業者や他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整整備する場合、爪軸等への草、ワラ等のからみつきを取り除く場合は、必ずエンジンを切り、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 軸への動力伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 傾斜地、凹凸がある圃場での急旋回は転倒の恐れがあるため、行わないようにしてください。

取扱上の注意

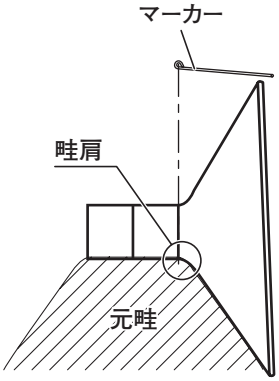
1. PTO「逆転」での作業はしないでください。作業機が破損する恐れがあります。
2. 土地条件に応じた作業速度、PTO 回転速度、作業機の調整を行ってください。
3. メインシャーボルトが切れた場合は、直ちにトラクタを止めエンジンを切り、速やかに交換してください。
4. アゼローターが前進作業状態でトラクタを後進させないでください。機械が破損します。
5. キャビン付きトラクタの場合、あぜ塗り作業及び、機械の昇降作業を行う時は必ずリヤハッチを閉めてください。開けたままで作業を行うと、トラクタによっては作業機が干渉し、リヤハッチを破損させる恐れがあります。

1　作業前の各部の調整

畦の仕上がり状態は、畦の土の状態によって異なりますので、以下の要領で各部の調節を行ってください。

1．アゼローターのセット

①トラクタを元畦と平行にし、トラクタのサイドミラーから見てマーカーが元畦のコーナーにくる位置にアゼローターを配置します。



元畦と同じ位置に畦を作る場合（図1）

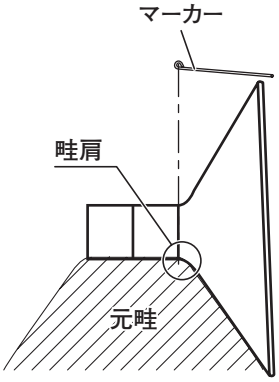
マーカーを元畦の肩に合わせます。

元畦を太くする場合（図2）

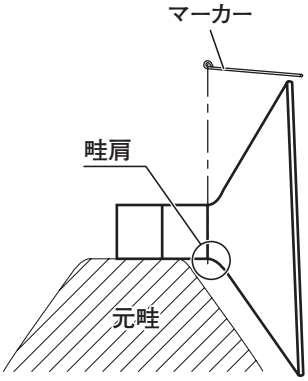
マーカーと元畦の間隔を少し広めにして合わせます。広めにし過ぎると畦が出来ません。

畦を細くする場合（図3）

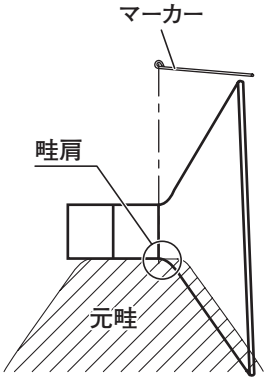
マーカーと元畦の間隔を少し狭くします。



（図1）



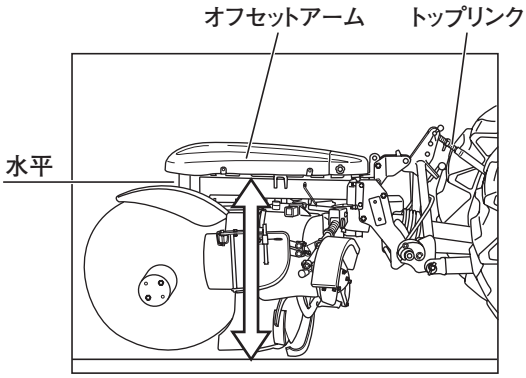
（図2）



（図3）

②エンジン回転速度を1800rpm付近まで上げ、PTO「1～2速」、ポジションレバーを最下げ、車速0.4km/h付近、ドラム深さ：標準、コールタ深さ：中央穴位置で数m試運転します。

③オフセットアームが地面に対して“水平”になるように、トップリンク（日農工標準ヒッチ）で調節します。



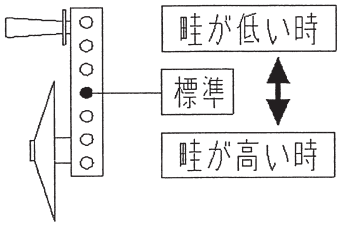
※ 水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。

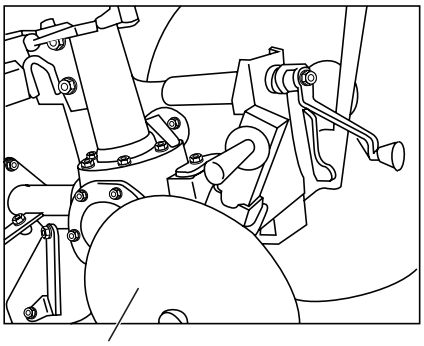
④チェックチェンの張りが適当かどうか確認してください。
⑤続いて各部の調整をします。

2．コールタの調整方法

コールタは作業機の深さ調整を行う装置です。作業深さは、ロックピンの位置を変えて調整してください。

※標準深さは、中央穴位置にセットしてください。





コールタ

3．ドラムの調整方法

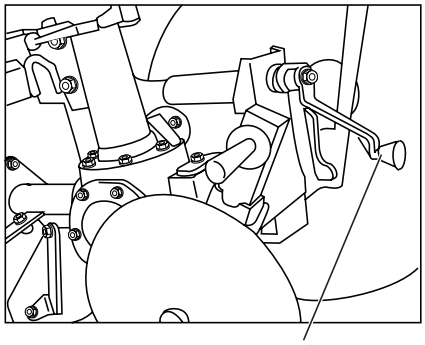
ドラムへの供給する土量の調整を行う装置です。

※ハンドル右回りで「少なく」（ドラム下へ移動）、左回りで「多く」（ドラム上へ移動）なります。

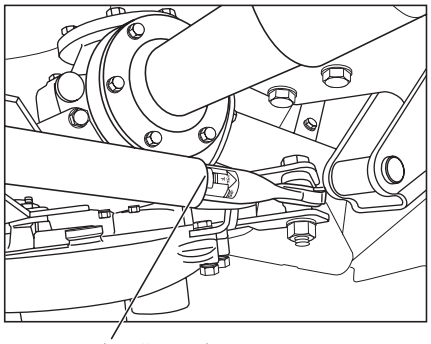
※深さはラベル数字を目安にします。標準深さは“標準位置”にセットしてください。

⚠ 注意

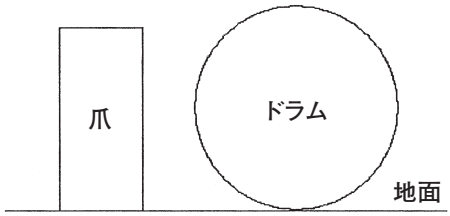
調整後すぐに土量は変化しないので、1 m ほど作業を行ってから、再度調整してください。



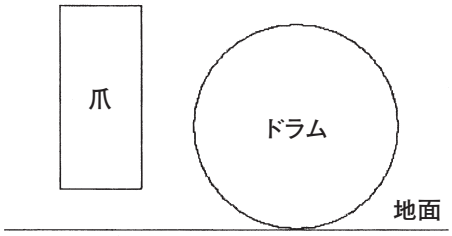
ドラム調整ハンドル



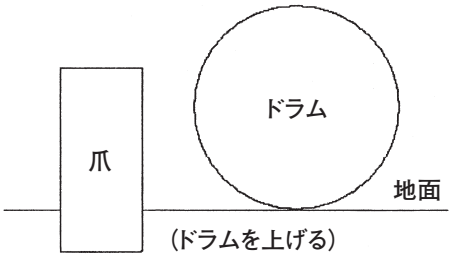
ラベル（標準位置）



（標準）



（ドラムを下げる）
※土の量が少なくなります。



（ドラムを上げる）
※土の量が多くなります。

4．スライドカバー調整方法

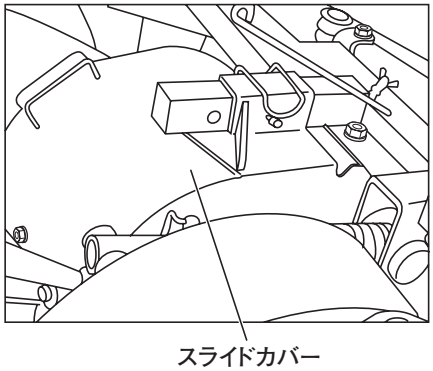
スライドカバーは、成形畦ののり面、天場への土量の調整を行う装置です。

※のり面への土量が少ない時、下図の右方向へスライドさせます。

※のり面への土量が多い時、下図の左方向へスライドさせます。

※天場への土量を多くしたい時は、下図の左方向へスライドさせます。

※天場への土量を少なくしたい時は、下図の右方向へスライドさせます。



5．ガイドプレートの調整方法

ガイドプレートはドラム調整、スライドカバー調整で土量を調整しきれない時に調整を行う装置です。ドラム・スライドカバーと併用して使用します。

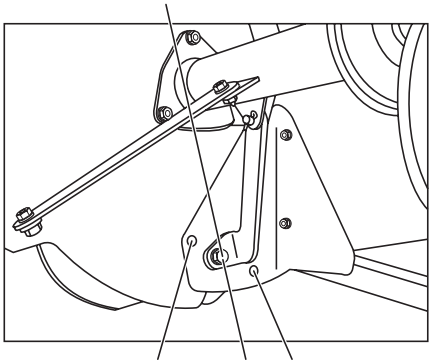
750 ドラム仕様標準位置はＢの位置になります。

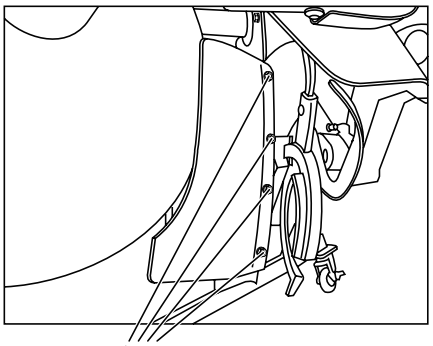
850 ドラム仕様標準位置はＣの位置になります。

※のり面への土量が不足する場合（乾いた土質のみ）は、カバーサポートをとめているボルトを外し、ガイドゴムをとめているボルト４本を緩め、Ａ位置までガイドプレートをスライドさせ、ボルトを固定してください。

※のり面への土量が多すぎる場合または水分の多い場合は、Ｃ位置で固定し、畦底に土をもどしてください。（固定方法はＡと同じ）

※ガイドゴムは、たるまない様に組み付けてください。ガイドゴムがたるんでいる場合は、畦が綺麗に成形できない場合があります。

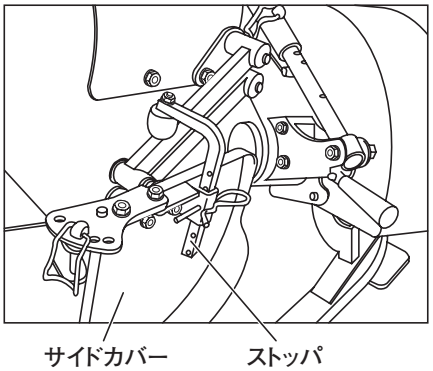




6．サイドカバーの調整方法

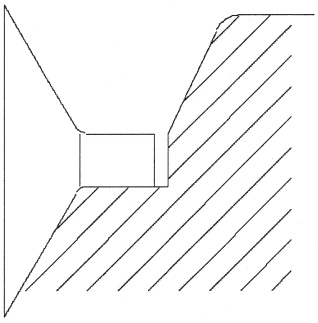
サイドカバーはスライドカバー内の土の飛散を防止する装置です。

※ストッパでサイドカバーの上下の規制を行い、絶えず天場上面を進行するように調節します。



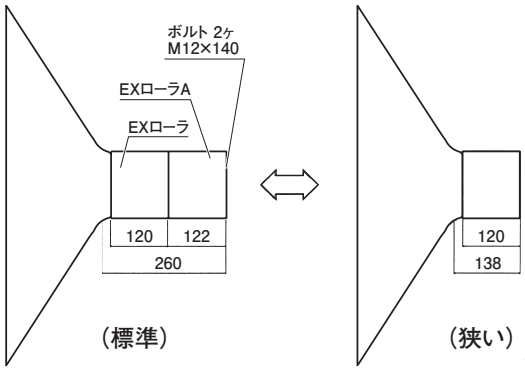
取扱上の注意

1．サイドカバーに無理な力がかからないように調節してください。
2．下図のような高畦を作業する場合、障害物等に接触する場合はサイドカバーを最上げになるように調節してください。



7．EX ローラの調整方法

天場（上面）の塗り幅の調整を行います。
高畦、天場を狭くしたい場合は、下図の固定ボルト２本を外し、EX ローラ A を取外してください。取外したボルト、ローラは大切に保管してください。EX ローラを取付けるときは、ボルト２本を均等に締めてください。

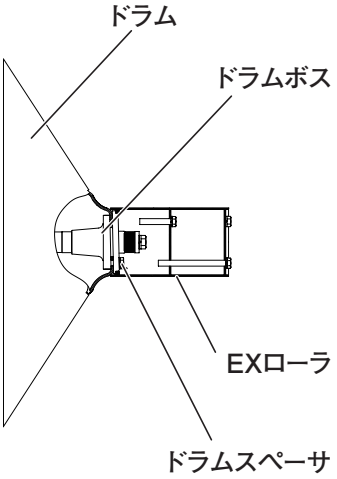


8．ドラム偏心量の調節方法

⚠ 注意

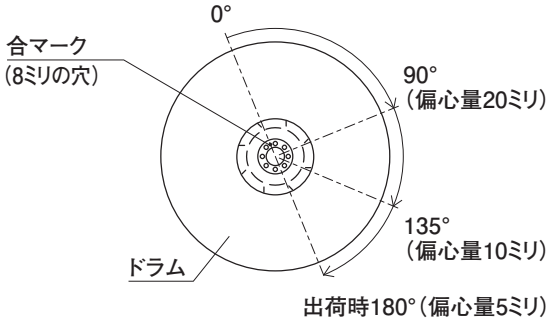
1．使用しているとドラム先端が鋭利になり、直接触れると手、腕等にケガをする恐れがあります。
2．ドラムに触れる時は丈夫な手袋をし、腕や足に直接触れないよう注意してください。

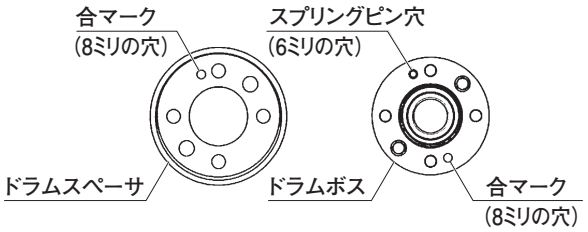
①成形畦の締まり具合を調節する時に偏心量を調整します。（特に車速を上げて作業する場合）偏心量は、ドラムボスとドラムを取り付ける位置によって変わります。
調整はEXローラ２個を取外し、ドラムボスに固定している、スプリングピンを抜きます。



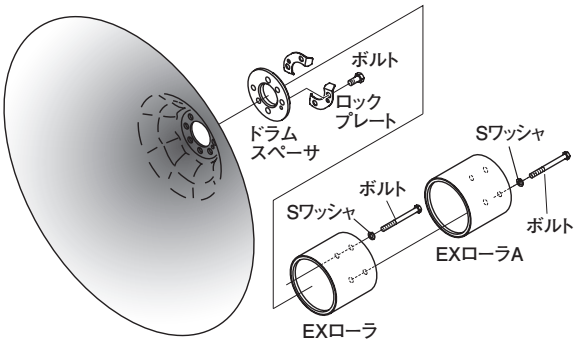
ロックプレートのツバを曲げ、ドラムボス、ドラム、ドラムスペーサを固定しているボルト４本を外します。

②ドラムの合マーク（8 ミリの穴）をドラムボスの合マーク（8 ミリの穴）に対して90°、135°、180° の調整したい偏心量に回転させます。。





③調整後はドラムボス、ドラム、ドラムスペーサ※、ロックプレートを4本のボルトで固定します。その後、ロックプレートのツバを曲げ、ボルト頭を固定し、EXローラを取付けます。



ドラム部組付手順

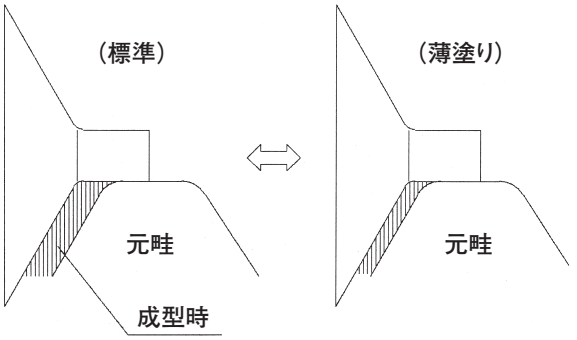
※ドラムスペーサは取付け位置があります。ドラムスペーサの合マークとドラムボスのスプリングピン穴（6ミリの穴）の合マークは必ず合わせてから取付けてください。

取扱上の注意

1．合マーク位置0°（偏芯量40ミリ）、45°（偏芯量30ミリ）は使用しないでください。ガイアマチックに悪影響がでます。
2．ドラムボスに打込むスプリングピンは偏芯量5ミリの時だけ使用します。偏芯量10ミリ、偏芯量20ミリの場合は使用できません。
3．ドラムスペーサの取付け位置が違うとEXローラーが振れて天場がうまく塗れず、破損の原因につながる恐れがあります。

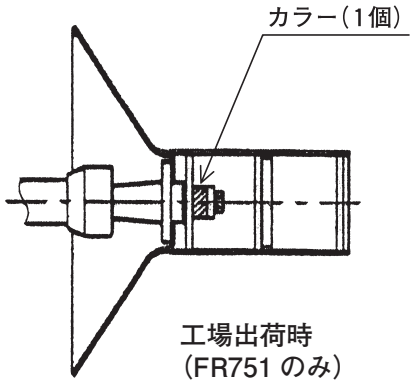
9．成形畦厚さの調整方法

条件によって成形畦が厚く（太く）なる場合に調整します。出荷時は標準位置です。（通常は調節しません。）

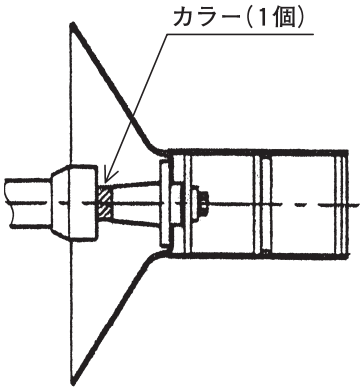


※EXローラ、ドラム、ドラムボスを外し、下図のようにカラーの位置に変えます。

①工場出荷時は、下記の位置に取付けています。



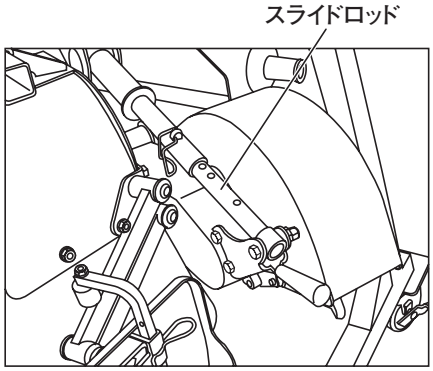
②新畦の厚さを変える場合は、下図の様にカラーを調整します。

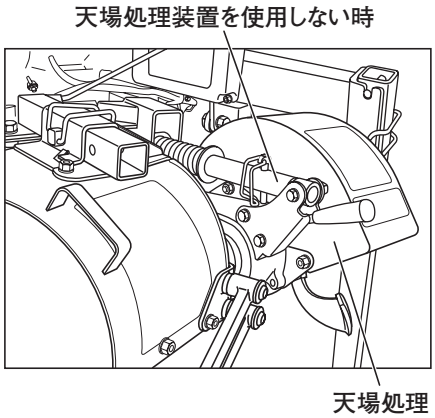


10. 天場処理装置の調整方法

天場の上面を削る又は簡単な草削りに使用する装置です。

スライドロッドの 10 ヶ所の穴で調整します。





⚠ 注意

調節の際は必ずエンジンを止め爪が回転していない状態で行ってください。

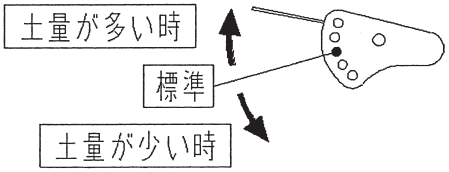
取扱上の注意

1. 上面の削り量が 7cm 以上にならないように調節してください。爪取付け部で耕うんしてしまうため、機械の破損の原因となります。
2. 石等がある場合は取り除いてください。
3. シャーボルトが切れた時は、直ちにトラクタを止め、エンジンを切り、速やかに交換してください。
   そのままの状態で使用すると、機械の破損の原因となります。
4. シャーボルトの交換は「シャーボルト交換方法」のページをご覧ください。
5. 使用しない場合はロッドの一番外の穴を使用し、天場処理機を最上げにします。
6. 削りたい量に応じて穴位置を変えていきます。

11. EX サイドカバーの調整

EX サイドカバーは成形畦ののり面、天場への土量の調整を行う装置です。

- 標準位置は中央の穴位置です。
- のり面への土量が少ない時、下図の様に外側方向へ調整してください。
- のり面への土量が多い時、下図の様に内側方向へ調整してください。



2 上手な畦塗りの仕方

畦塗り作業は圃場の状態（水分、土質）に大きく左右されます。同じ圃場内でも変化します。以下の調整を目安に作業を行ってください。

1. 作業速度（直進作業時）

作業速度は、0.2km/h ～ 1.2km/h です。一般的に、

- 水分が多い場合：
  車速を早くし綺麗な成形を優先
- 水分が少ない場合：
  車速を遅くし締め付けを優先します。

2. 畦高さ

畦高さはドラムの種類及び EX ローラの種類で決まります。目安は以下の通りです。

ドラム	EX ローラ	畦高さ（目安）
750 ドラム	標準	20 ～ 30cm
	大径ローラ（B 仕様）	15 ～ 25cm
850 ドラム	標準	25 ～ 35cm
	大径ローラ（B 仕様）	20 ～ 30cm

3. 各部の調整

条件による各部の調整の目安は以下の通りです。

あくまでも目安ですので、条件にあった調整を行ってください。

調整方法は①から順番に調整してください。

取扱上の注意

また、下記調整前に、作業機姿勢が前後水平（P.21、25）チェックチェンの調整（P.21）が出来ているか確認してください。

1．元畦が低い場合

①ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整）
コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整）
上記調整で天場に土が多すぎる（EX ローラより土がこぼれる）場合は、

②トラクタ車速：上げる

③ガイドプレート：C 位置に調整

④スライドカバー：標準より内側に調整

※ 調整しても畦が成形できない場合は、低アゼ用ローラ(オプション)を使用してください。

2．天場に土が不足する場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ PTO：回転速度を上げる（エンジン回転数上げる）

③ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整）
コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整）

3．畦のり面に土が不足する、畦肩が塗れない場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ PTO：回転速度を上げる（エンジン回転速度上げる）

③ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整）
コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整）

④スライドカバー：標準より内側に調整

4．天場の締まりが悪い場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ水平制御：畦側に傾ける
（自動角塗り作業2m以上手前で必ず水平にする）

③ドラム：上げる（爪が深くなるよう調整）
コールタ：上げる（爪が深くなるよう調整）
もしくは

④ドラム：少し下げる（爪が浅くなるよう調整）

※ドラムを下げすぎると土が足りなくなります。

5．シールドカバー前に土が溜まる

①トラクタ車速：上げる

②ポジションレバー：少し上げる

③ドラム：下げる（爪が浅くなるよう調整）
コールタ：下げる（爪が浅くなるよう調整）

6．畦が真っ直ぐ行かない（ハンドルが取られる）

ドラム：下げる（爪が浅くなるよう調整）
コールタ：下げる（爪が浅くなるよう調整）

※ ドラムを下げすぎると振動が増加し直進性が逆に悪くなります。

作業後の手入れ

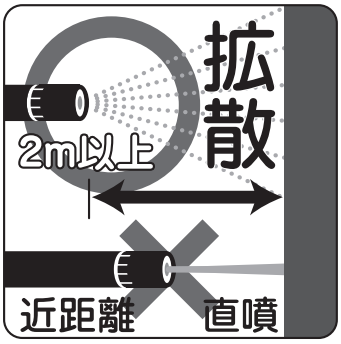
1．作業後は、その日の内に水洗いし、土などの汚れを落とした後、水分を十分にふきとってください。

2．高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意（高圧洗車機）

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m 以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

例 1）電気配線被覆の損傷･断線によるショート・火災の発生
2）シール・ラベルの剥がれ
3）電子部品等への水浸入による故障
4）樹脂類（カバーなど）の破損
5）塗装・メッキ皮膜の剥がれ



3．各部に注油･給脂（グリスアップ）してください。

4．シリンダ部（銀色部）の汚れ除去及びサビ止めをしてください。サビは、油もれの原因となります。

部品交換方法と注意事項

1　シャーボルト

作業機に大きな衝撃がかかるとシャーボルトが切れ、機械を保護します。

取扱上の注意

1．シャーボルトが切れた時は、直ちにトラクタを止めエンジンを切り、ボルトの交換をしてください。
2．シャーボルトはコバシ純正ボルト以外使用しないでください。指定外のボルトを使用すると、シャーボルトが早く切れたり、機械が破損したりします。
3．シャーボルトが切れた場所にある石や障害物を取除くか避けて作業を再開してください。
4．オフセット（メイン）用のシャーボルトと天場処理装置用のシャーボルトは、別々に保管し、取り付ける際は間違えない様によく確認してから取付けを行ってください。（天場処理装置用は全ネジ）取付けを間違えると、シャーボルトが早く切れたり、機械が破損したりします。

1．種類と本数

作業機に使用するシャーボルトの種類と本数は下記の通りです。

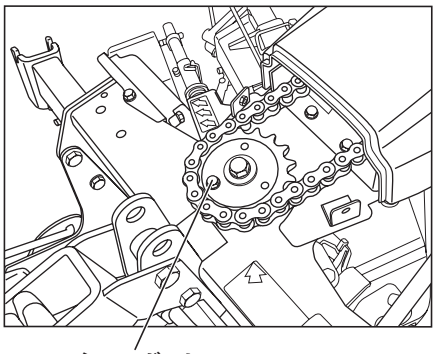
型式：FR751C (F)				
場所	規格			コード
オフセット（メイン）	シャーボルトキット（ホンタイ）	シャーボルト	M8 × 30 P1.25　13T	7662957
		Uナット	M8　P1.25	
天場爪軸	シャーボルトキット（テンバ）	シャーボルト	M8 × 25 P1.25　8T	7662959
		Uナット	M8　P1.25	

付属部品としてシャーボルト、U ナット各 10 ヶが入っています。

2．シャーボルト交換方法

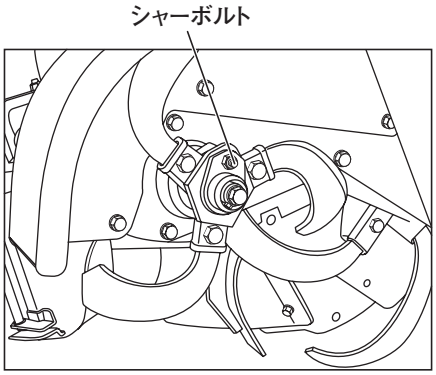
〈オフセット（メイン）〉

①トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTO が切れていることを確認します。
②オフセットチェンカバーを外し(ノブボルト 2 ヶ所)、折れているボルト、ナットを取り除きます。
③前方部分に位置するフランジとスプロケットの間にフランジの穴からオイルを十分注油してください。
④フランジの穴とスプロケットの穴を合わせ、下方にナット、上からボルトを入れ、ボルトを締め込みます。
⑤オフセットチェンカバーを取付けます。



〈天場処理装置〉

①トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTO が切れていることを確認します。
②フランジの穴と爪軸の穴を合わせ、爪軸側からボルトを入れ、ナットを締め付けます。（ボルトは回らないようになっています。）



2 耕うん爪

爪が摩耗してくると、畦の仕上がりが悪くなります。早めのコバシ純正爪への交換をお勧めします。

⚠ 注意

1．平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした所で作業を行ってください。
2．トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、必ず油圧をロックし、作業用のスタンド（ウマ）などで作業機の落下を防止してください。
3．作業は丈夫は手袋を着用して行ってください。

1．種類と本数

作業機に使用する爪、ボルトの種類と本数は下記の通りです。

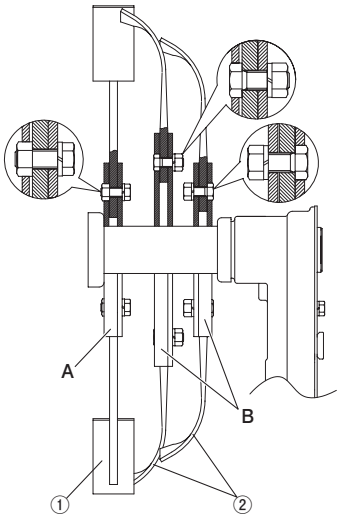
型式：FR751C（F）				
場所	規格		コード	本数
前処理部	ナタツメ	BR3060RZ	67811	4
	ハイドツメ	AR31	49870	2
	ボルト	M12×30 P1.5 8T	9011759	6
	ナット	M12 P1.5	9140014	6
	ワッシャ	M12	9210012	6
天場処理部	ハイドツメ	M24R	60411	3
	ボルト	M10 × 20 P1.25 8T	9011156	3
	ナット	M10 P1.25	9140010	3
	ワッシャ	M10	9210010	3

2．爪の交換方法（コバシ純正爪を使用してください）

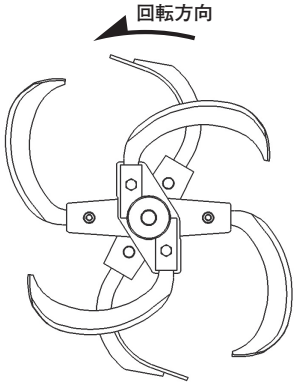
一度に全て外して交換するのではなく、1本ずつ外して交換していくと、爪の種類、配列の間違いを防げます。

〈前処理部〉

①Aのホルダにハイドツメ（AR31）を差込み、ナットを六角穴に入れ、丸穴側からボルト、ワッシャを入れて締め付けます。
②Bのホルダにナタツメ（BR3060RZ）を差込み、ボルトを六角穴に入れ、ナット、ワッシャで締め付けます。
③全て交換し終わったら増し締めを行ってください。

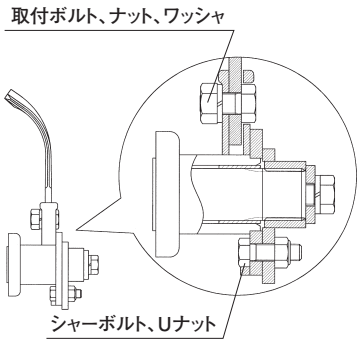


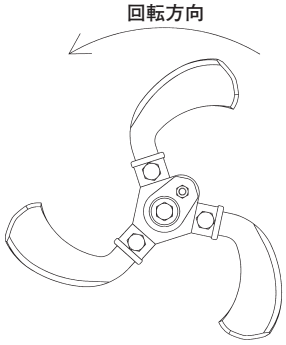
①ハイドツメ（AR31）
②ナタツメ（BR3060RZ）



〈天場処理部〉

①ホルダにナタツメ（M24R）を差込み、ボルトを六角穴に入れ、ナット、ワッシャで締め付けます。
②全て交換し終わったら増し締めを行ってください。





保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

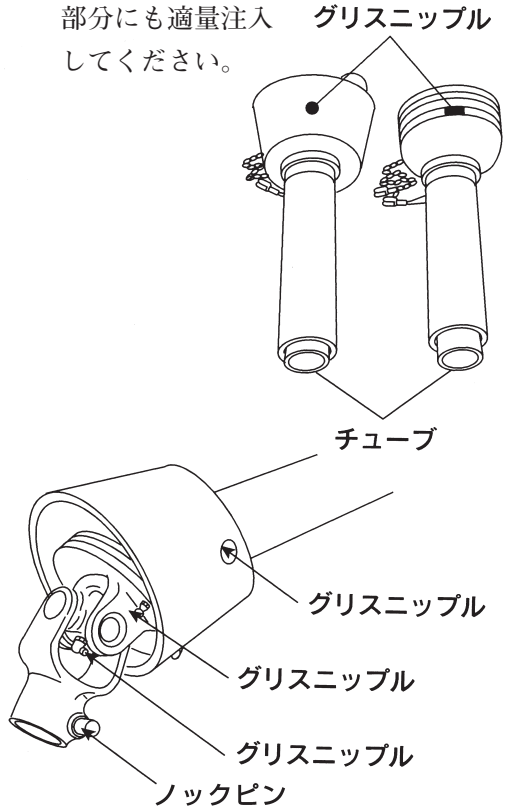
⚠ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

2. グリスの給油

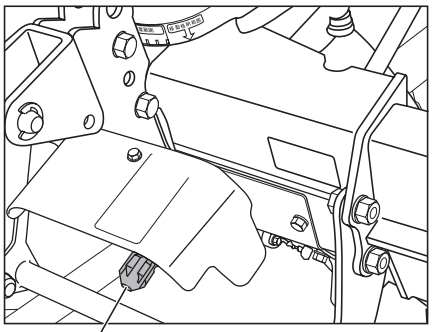
①ジョイントは分解して、チューブのかみ合い部分及びノックピン部にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。

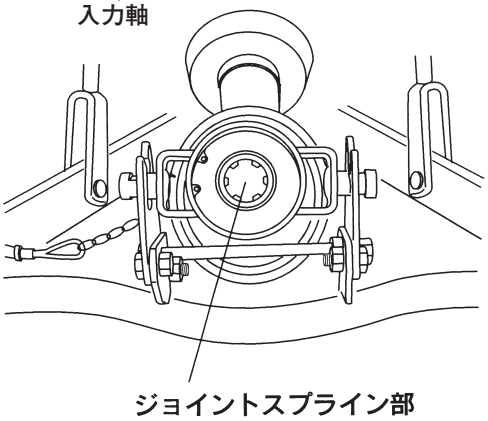


取扱上の注意

特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布しゴミがかからないようにしてください。

②トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はサビないようにしてください。

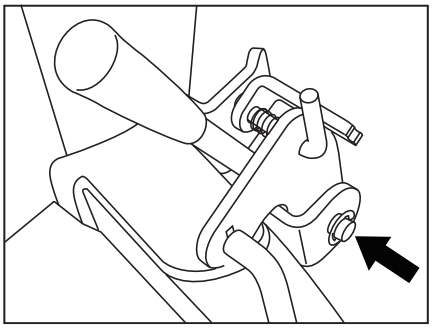


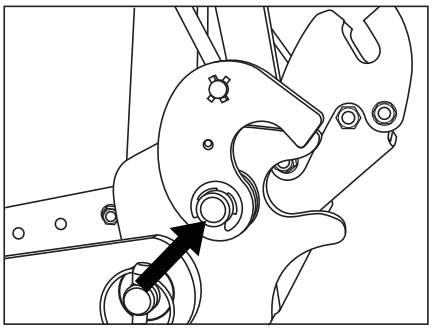


⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

③オートヒッチのフックの支点部分にオイルを適量塗布してください。



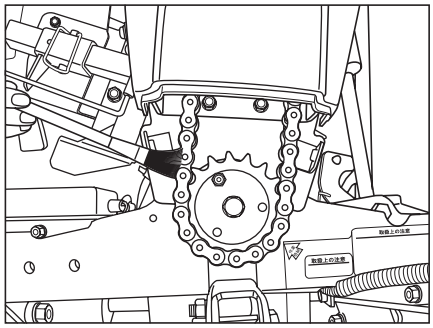


④下記チェン及び支点部へ適量のオイルまたはグリスを塗布するか、もしくはスプレーを噴霧してください。グリスニップル部分にはグリスを適量注入してください。

■チェン部

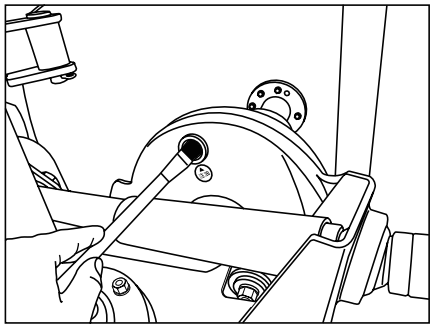
※チェンケースはいずれも密閉されておらず、オイルを入れると漏れ出します。チェンにオイルまたはグリスを直接塗布するか、もしくは噴霧してください。怠るとチェンの寿命を早め、また、異音の原因となります。

●オフセットチェン

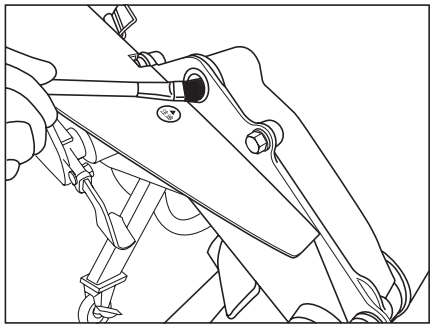


オフセットチェンカバーを外した状態

●ドラムチェン



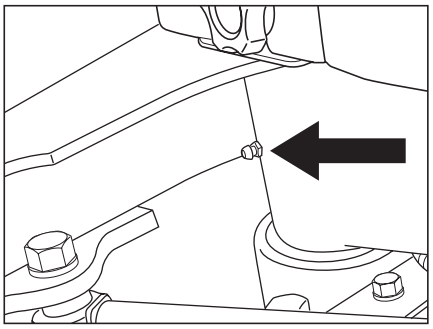
●テンバチェン



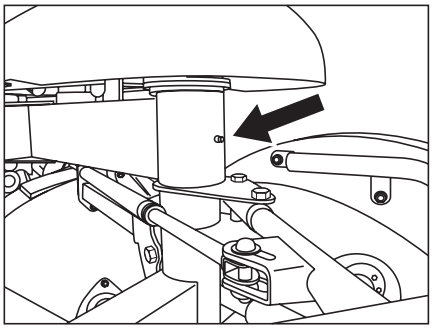
■オフセット・旋回作動部

※怠るとスムーズなオフセット動作ができなくなります。

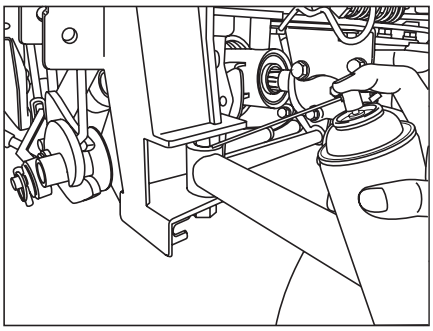
●オフセットアーム（フロント側）のグリスニップル



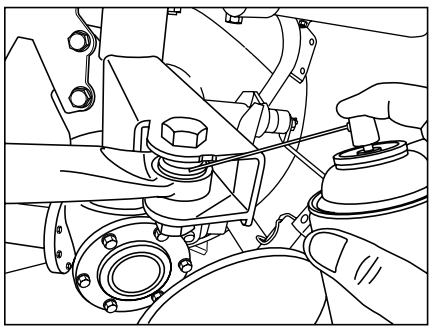
●オフセットアーム（リヤ側）のグリスニップル



●オフセットリンク支点部



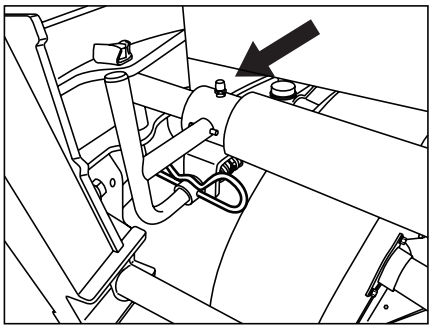
●オフセットリンク支点部



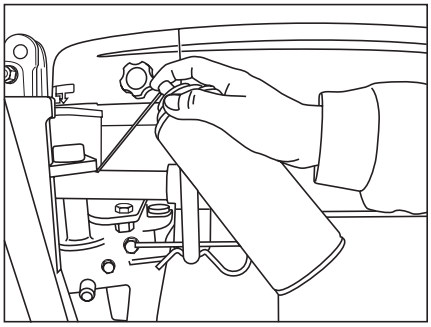
■フレーム・調整部

※怠るとスムーズな動作及び調整ができなくなります。

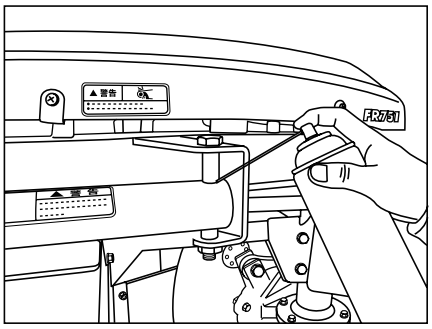
●スライドロッドのグリスニップル（C仕様のみ）



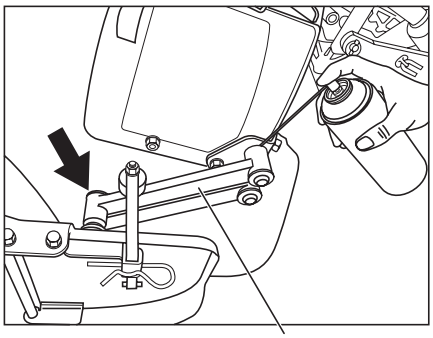
●スライドロッドの支点部（C仕様のみ）



●スライドロッドの支点部（C仕様のみ）

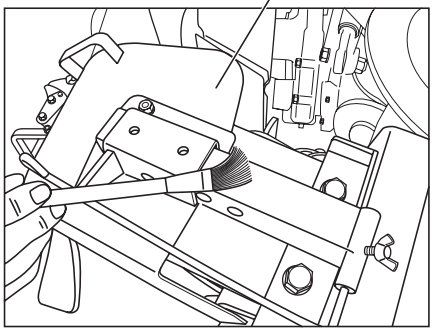


●スイングアーム支点部（4箇所）

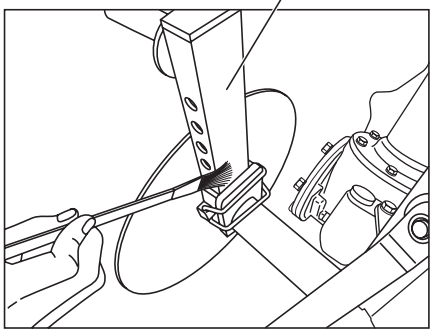


スイングアーム

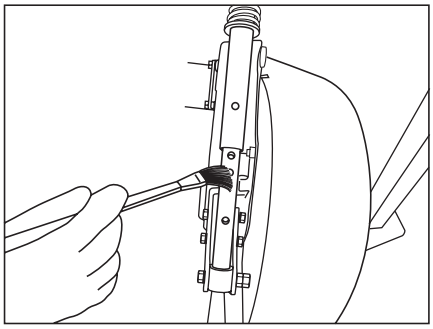
●スライドカバー調整部



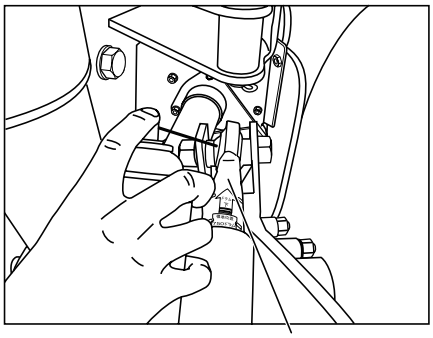
●コールタ調整部



●テンバ処理調整部

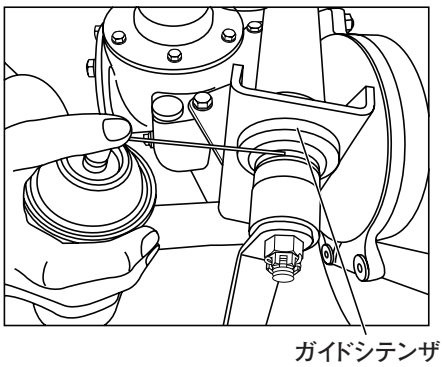


●チョウセイパイプ支点部

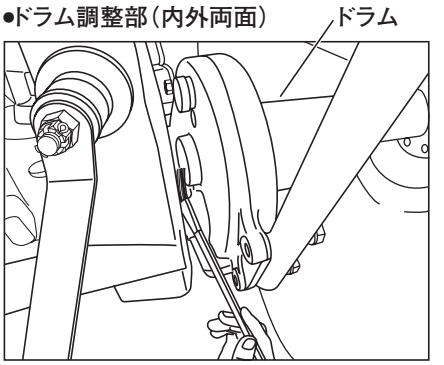


チョウセイパイプ

●ガイドシテンザ支点部



●ドラム調整部（内外両面）



3．給油と交換

下記の基準で実施してください。

安全に　点検整備するときには、

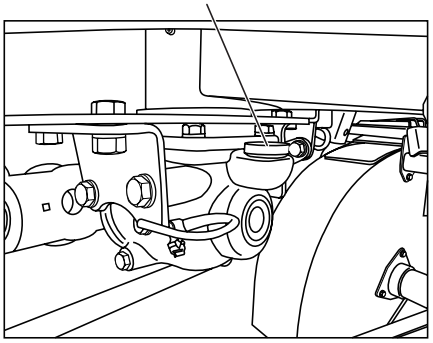
1. トラクタを平坦な広い場所に置き、
2. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、
3. トラクタの落下を防止する落下防止調整レバーを回して油圧をロックし、
4. 更に安全性を確認してから行ってください。

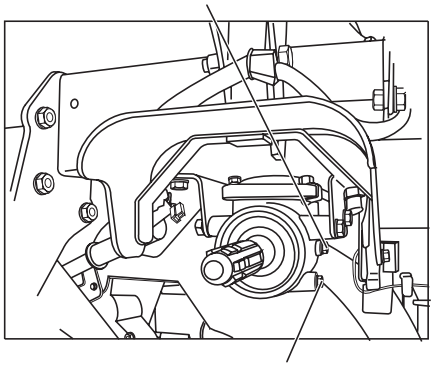
点検項目	種類	オイル量(目安)	点検・交換時期
フロントギヤケースのオイル量点検	＃90	0.3L	毎作業前点検
リヤギヤケースのオイル量点検	＃90	0.9L	〃
フロントギヤケースのオイル交換	＃90	0.3L	初回50時間、以後150時間で交換
リヤギヤケースのオイル交換	＃90	0.9L	〃

①フロントギヤケースのオイル給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。ギヤオイル 90 番を給油口から検油ボルトまで入れてください。

（機体を水平にした状態で確認ください。）

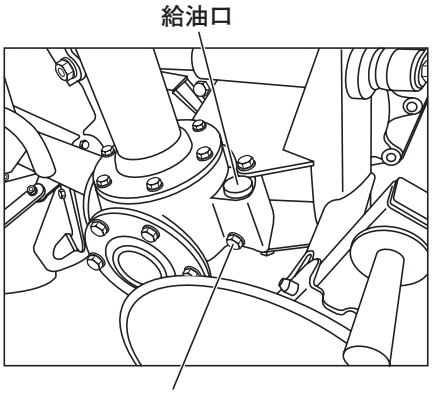


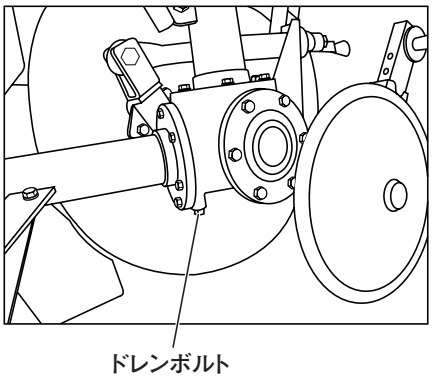


②リヤギヤケースのオイル給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。ギヤオイル 90 番を給油口から検油ボルトまで入れてください。

（機体を水平にした状態で確認ください。）





ドレンボルトを外してオイルを出します。ギヤオイル 90 番を給油口から規定量までいれてください。

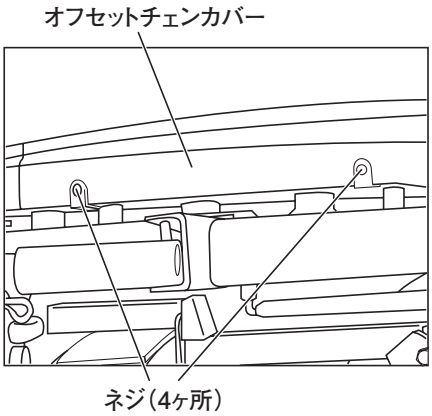
4. オイルシールの組み替え

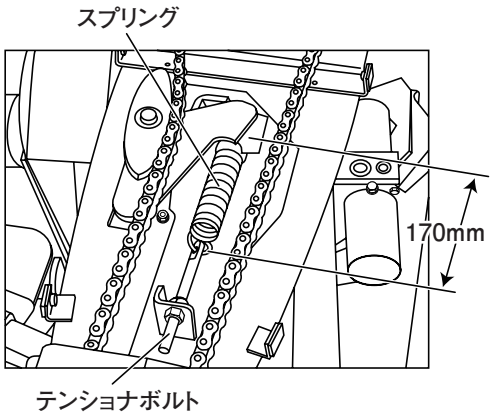
整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキンと交換してください。オイルもれの原因になります。

5. チェンの張り調整（テンショナボルトの調整）

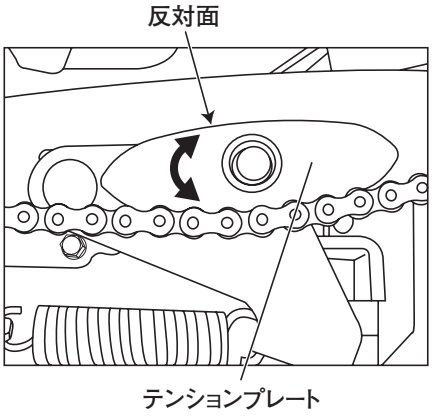
オフセットチェンカバーを外し、チェンの張りをテンショナボルトでスプリング長さ(フック内 - 内) を 170 ミリに調整してください。

> **⚠ 警告**
>
> 調整後はオフセットチェンカバーを必ず装着してください。外したままにするとケガをする恐れがあります。





テンショナプレートが摩耗した場合は、テンショナプレートを 180° 回転させ、反対面を使用してください。



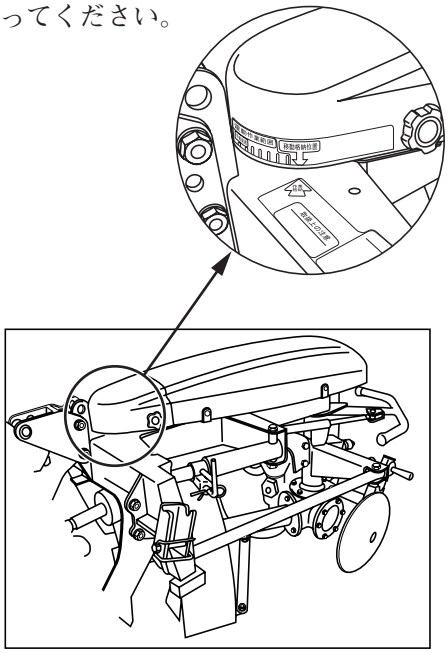
6. 配線（F 仕様のみ）

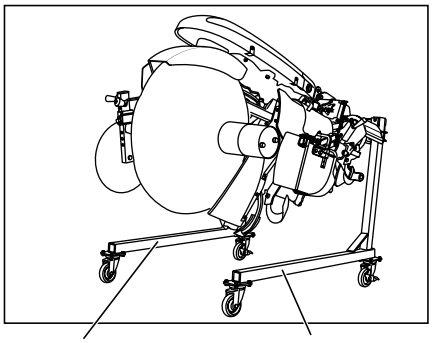
配線については、以下の基準で点検及び交換をしてください。

点検項目	点検時期	交換時期
配線の劣化、つぶれ、断線の確認	毎作業前	2 年ごと

保管・格納

1. 格納する時は、必ず作業機を下図のように移動格納状態にし、矢印を合わせた位置（→←）にしてキャスタスタンドを取り付けてから行ってください。

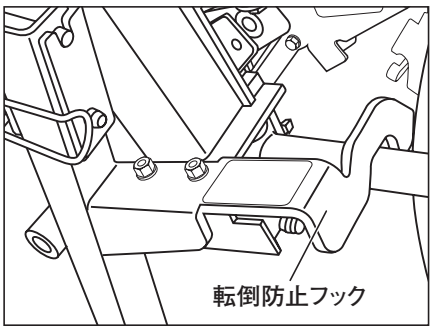




⚠ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取付けるとバランスを崩し作業機が転倒する恐れがあります。
3. キャスタスタンドは機械の保管及び格納時にのみ使用してください。トラック等での運搬に使用した場合、キャスタスタンド及び機体が破損する恐れがあります。

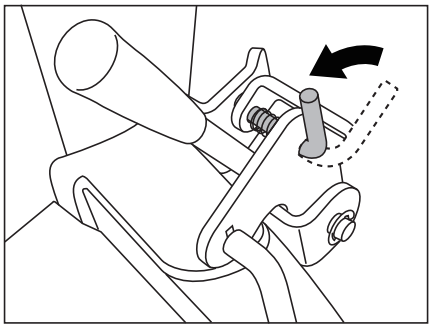
2. 格納時は、必ず転倒防止フックをキャスタスタンドＬに取付けた状態にし、下図の様にフックがオフセットリンクにかかった状態にしてください。



⚠ 注意

1. 作業機を格納する場合は、必ず転倒防止フックをキャスタスタンドＬに取付けた状態にしてください。外した状態で格納すると、シリンダが少量ずつ伸び、作業機が転倒するおそれがあります。
2. 誤動作により転倒防止フックが変形している場合、転倒防止フックを新品に交換してください。格納時には必ずフックがかかって完全にロック状態になっていることを確認してください。
3. 格納時は、平坦な場所に保管してください。

3. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
4. 格納後は、子供が触れないような処置をしてください。
5. オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。
   (日農工標準3Pオートヒッチ0・Ⅰ型)



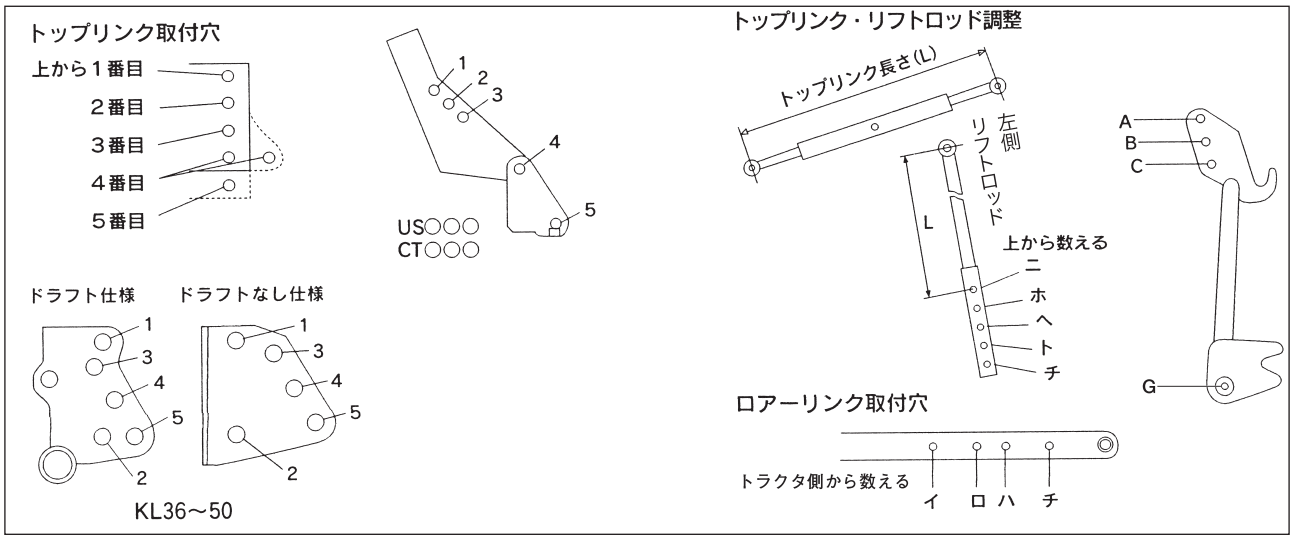
6. 必ず屋内に保管してください。屋外での長期保管は機械寿命を低下させます。

点検整備一覧表

時　　間	項　　目	参照ページ
新品　使用始め	①ギヤーケースのオイル量点検	33，34
	②油溜式でない駆動チェンの注油点検	34
新品１時間使用後	①全部のボルト、ナットを増し締め	33
	②チェンの張りを調整（テンショナボルト調整）	55
新品50時間使用後	①ギヤーケースのオイル交換	54
	②チェンの張りの調整	55
毎日の作業　前	①ギヤーケースのオイル量、オイル漏れの点検	33，34
	②油溜式でない駆動チェンの注油	34
	③耕うん爪の取付ボルトの増し締め	33
	④ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	33
	⑤地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常点検	34
	⑥配線の劣化、つぶれ、断線の確認（Ｆ仕様のみ）	55
毎日の作業　後	①洗浄後、水分拭き取り	48
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み脱落の確認	33
	③耕うん爪・爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	50
	④入力軸へのグリス塗布	51
	⑤ジョイントスプライン部へのグリス塗布	51
	⑥ジョイントノックピンへの注油	51
	⑦電動シリンダ等のシリンダ部（銀色部）汚れ除去（Ｆ仕様のみ）	48
	⑧可動部（支点部含む）への注油及び、グリス塗布	51～54
150時間毎　又は	①ギヤーケースのオイル交換とオイルシール異常点検	54，55
シーズン　終了後	②旋回支点部、各部グリスニップルへのグリス注油	52～54
	③ジョイントのシャフトへのグリス塗布	51
	④電動シリンダ等シリンダ部（銀色部）へのサビ止め（Ｆ仕様のみ）	48
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥安全ラベルの剥がれの点検	5～8
	⑦消耗部品の早期交換	63
シーズン　始め	①チェンの張り調整	55
	②可動部（支点含む）への注油及び、グリス塗布	51～54
2　年　毎	①電気配線の交換（Ｆ仕様のみ）	55

トラクタ別装着表（Sヒッチ）

この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内でご使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法（mm）		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
KL27R KL2750 KL265,L315D･345D KL250,L270D･300D KL27 KL25NC･25HT･25J･KL28rops	4	イ	ヘ	640	A	G			
KL27RQ KL2750Q KL265Q,L315DQ･354DQ KL250Q,L270DQ･300DQ KL27Q,KL25NCQ･25HTQ･25JQ KL25PC･270PC･285PC･2850PC	1	イ	ヘ	640	A	G			
KL26R-PC･28R-PC･31R-PC	2	ロ	ヘ	660	C	G			
KL31R･34R KL3150･3450 KL285～345 KL270～340, L330D KL30(Q)･33(Q)･31(Q)･34(Q) KL28(Q)･27J(Q)	4	イ	ヘ	680	A	G			
KL34R-PC	4	ロ	ヘ	650	A	G	TC84Mに交換	TC74に交換	
KL34RD-PCドラフト	5	ロ	ト	620	A	G	TC84Mに交換	TC74に交換	
KL3450PC･345PC･330PC･33PC	2	イ	ヘ	730	A	G			
KL360･430 KL36(Q)･43(Q)	5	イ	ヘ	750	A	G		TC74に交換	
KL40Z･44Z KL3950･4350 KL385･415,L465 KL380･410 KL38(Q)･41(Q)	5	イ	ヘ	650	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
KL40Z-PC·44Z-PC KL3950PC(2/3)·4350PC(2/3) KL415PC KL410PC KL41PC	5	イ	へ	650	A	G			
GL261·277·281 GL301E·321E GL260·268·280 GL300ES·320ES GL25·26·27, L27	3	イ	へ	720	A	G			
GL261C·281C GL261Q·277Q GL260Q·268Q GL25Q·26Q·27Q, L27Q	2	イ	へ	670	C	G			
GL281J·280J GL301·321·337 GL300·320·338 GL27J·29·32·33, L33	3	イ	ホ	760	A	G			
GL281Q·301Q·321Q GL337Q·338Q GL280Q·300Q·320Q GL281JQ·280JQ GL301C·321C GL27JQ·29Q·32Q·33Q, L33Q	3	イ	ホ	790	C	G			
GL367·417 GL367E·417E GL368·418 GL368ES·418ES	3	イ	ホ	760	A	G			
GL367Q·417Q GL367EQ·417EQ GL368Q·418Q GL368ESQ·418ESQ	3	イ	ホ	780	C	G			
GL350(Q)·400(Q)·430(Q) GL35(Q)·40(Q)·43(Q)	3	イ	ホ	710	A	G			
L_1-275J(Q)	3	イ	ホ	720	A	G			要上昇規制
L_1-275(Q) L_1-265, L_1-26	3	イ	へ	720	A	G			要上昇規制
L_1-295(Q)·315(Q)·325(Q) L_1-285, L_1-28	3	イ	ニ	730	A	G			要上昇規制
L_1-325(Q)ドラフト	4	イ	ニ	680	A	G			要上昇規制
L_1-345(Q)·385(Q)·435(Q) L_1-33·38·43	3	イ	ホ	670	A	G			ジョイント異音時 PTO 切
US401	4	イ	へ	610	A	G			
EG437·441	4	ロ	へ	590	A	G			
EG326·328	4	ロ	ト	570	A	G			
EG330·334	4	ロ	ト	550	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法（mm）		備　考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
US535･540	5	イ	ヘ	570	A	G	30	30	
US535A･540A JD1320	5	イ	ヘ	610	A	G			青森仕様 ジョンディア仕様
EF326(V)･328(V)	3	イ	ヘ	740	A	G			
EF330(V) ～ EF342(V)	4	イ	ヘ	730	A	G			
US261･301･361･324･328･330･334	2	イ	ホ	590	A	G	50	50	
US31(Q)･35(Q)	3	イ	ホ	550	A	G	70	70	
US39(Q)	3	ロ	ニ	580	B	G	50	50	
US32(R)(Q)･36(R)(Q)	3	ロ	ホ	590	A	G	50	50	
US40(R)(Q)	3	ロ	ホ	570	B	G	50	50	
AF328･330	3	イ	ヘ	750	A	G			
AF333･336･339･342	4	イ	ヘ	750	A	G			
AF310(J)(R)(Q)･330(J)(R)(Q)･350(J)(R)(Q)･400(R)(Q)	4	イ	ホ	740	A	G			
AF30(Q)･33(Q)	3	イ	ホ	790	A	G	TC84Mに交換	TC80に交換	
AF33J(Q)･35J(Q)	3	イ	ホ	790	A	G			
AF30(J)(Q)R･33(J)(Q)R･35(J)(Q)R	4	イ	ホ	770	A	G			
FX305･335･435 FX28･32･42	3	イ	ホ	580	A	G			ジョイント異音時 PTO切
F395	4	イ	ヘ	650	A	G			
F395Q F37	4	イ	ヘ	650	A	G			
AF270(J)(R)(Q)･290(J)(R)(Q) AF26(Q)･28 (J)(Q)	3	イ	ホ	760	A	G			
CT340･420 CT401･451	4	イ	ヘ	550	A	G			
FV330(Q)･430(Q)	2	イ	ヘ	580	A	G			
FV280(Q)･310(Q)	2	イ	ホ	580	A	G			ジョイント異音時 PTO切
AT260 AT25 ATK250 ATK25	3	イ	ホ	590	A	G			
AT280･310･340 AT27･30･33 ATK340 ATK33	3	イ	ホ	610	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法（mm）		備　考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
AT370･410 AT37･41 ATK430	3 (4)	イ	ニ	670	A	G			トップリンク穴(　)はドラフト仕様を示す
AT280C･340C AT27C･33C ATK340C ATK33C	3	イ	ホ	620	A	G			
AT410C AT41C	3 (4)	イ	ホ	670	A	G			トップリンク穴(　)はドラフト仕様を示す
TG413(Q) TG37(Q) TGS41(Q)	3	イ	ニ L=490	570	A	G			
TG293(Q)･313(Q)･333(Q) TG27(Q)･29(Q)･31(Q)･33(Q) TG27L･31L TG29H(Q) TGS29(Q)･33(Q)	3	イ	ニ	620	A	G			
TG273(Q)	3	イ	ニ	630	A	G			
TG273-A	2	ロ	ホ	550	A	G			
TK29･33	2	イ	ホ	560	A	G	60	60	
TA337(Q)･357(Q)･417(Q) TA437(Q) TA295(Q)･325(Q)･345(Q) TA375(Q)･435(Q) TA290･320･340･370 TG353･373 TK37･41 TGS37	3	イ	ホ	550	A	G			
TA267(Q)･287(Q)･317(Q) TA255(Q)･275(Q) TA262(Q)･312(Q)･263(Q)	2	イ	ホ	620	A	G	50	50	
MT408 GX40 GX400 GX401	4	イ	ニ	540	A	G			
MT338･368 GX34･37 GX370 GX371	4	ロ	ニ	550	A	G			
MT271･291･311･331 GO26･28･30･32･34 GO260･280･300･320･340 GO261･281･301･321･341	3	イ	ホ	720	A	G		TC74に交換	
GOK301･341 GOK300･340 GOK26･34 MT251K･311K	3	イ	ホ	650	A	G		TC74に交換	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法（mm）		備　考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
MT286･306･336	3	イ	ホ L=491	660	A	G			
MT286Q･306Q･336Q	1	イ	ホ L=491	620	A	G			
MT265L MT285･305	3	イ	ホ L=491	660	A	G			
MT265LQ MT285Q･305Q	1	イ	ホ L=491	630	A	G			
MT335(Q)･365(Q) MT337(Q)･367(Q)	4	ロ	ニ L=477	570	A	G			
MT33	4	ロ	ニ L=477	510	A	G			
MT27･30	4	イ	ホ L=480	540	A	G			
MT400(Q)	3	ロ	ホ	570	B	G	50	50	
D258(Q)･278(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	ジョイント異音時 PTO 切
D288(Q)･318(Q)	2	イ	ホ	580	A	G			ジョイント異音時 PTO 切
D338(Q)･438(Q) S440A 新	2	イ	ヘ	580	A	G			
S330A D265(Q)･275(Q)･295(Q) D26･28	2	イ	ホ	590	A	G			
S440A D335(Q)･435(Q) D32･34･43	2	イ	ホ	580	A	G			
NX261･277･281 NX25･27 NX301Z･321Z	3	イ	ヘ	720	A	G			
NX261Q･277Q･260Q NX25Q･27Q	2	イ	ヘ	670	C	G			
NX301･321･337 NX300･320･338 NX29･32	3	イ	ホ	760	A	G			
NX281Q･301Q･321Q NX337Q･338Q NX280Q･300Q･320Q NX29Q･32Q	3	イ	ホ	790	C	G			
NX367(Z)･417(Z)･467(Z) NX368(Z)･418	3	イ	ホ	760	A	G			
NX367(Z)Q･417(Z)Q･467(Z)Q NX368Q･418Q	3	イ	ホ	780	C	G			
NX350(Q)･400(Q)･430(Q) NX35(Q)･40(Q)･43(Q)	3	イ	ホ	710	A	G			
NTX360･430 NTX36･43	5	イ	ヘ	750	A	G		TC74 に交換	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備　考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S TC71M	3S/-1S TC69	
NTX387･417 NTX380･410 NTX38･41	5	イ	へ	650	A	G			
NTX27･28 NTX250･267 NTX28rops	4	イ	へ	640	A	G			
NTX270 ～ 340 NTX287 ～ 347 NTX30･31･33･34 NTX28Q	4	イ	へ	680	A	G			
TX261･281 TX260･280	3	イ	へ	720	A	G			
TX260Q･280Q	2	イ	へ	670	C	G			
TX301･321 TX300･320	3	イ	ホ	760	A	G			
TX281Q･301Q･321Q TX280Q･300Q･320Q	3	イ	ホ	790	C	G			
TX272･253	4	イ	へ	640	A	G			
TX302･332･273 ～ 333	4	イ	へ	680	A	G			

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。再使用せず、直ちに対策を行ってください。

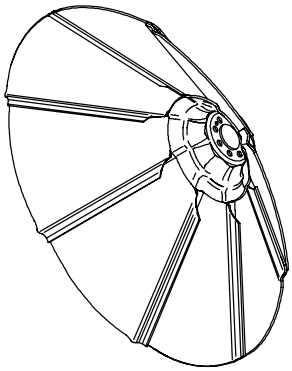
特に　　部の対応については、触れずに必ず購入された販売店に相談して対策を行ってください。

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
ギヤーケース	異音の発生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オイル漏れ	オイルシール、Oリングの劣化、損傷	オイルシール、Oリング交換
		ケース取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
チェンケース	異音の発生	チェンの緩みによるカバーとの干渉	テンショナ調節、チェン交換
		チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ベアリングの油ぎれ	ベアリングへの注油
		チェンの油ぎれ	チェンへの注油（保守･点検参照）
耕うん軸	異音の発生	軸受け部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取り付けボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振動の発生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		チェンの折損	チェンの交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
	土のたまりすぎ	耕深が深い	耕深を浅く
ドラム	振動の発生	爪の耕深よりドラムが下がりすぎ	ドラムを上げる
	回転不良	ドラム取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		チェンの折損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
フレーム	振動の発生	カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		グリス切れ	グリスニップル

フレーム	オフセット 作動不良	ハーネスの断線又は結合部、端子外れ	ハーネス又は端子・コネクタの交換（F 仕様のみ）
		電動シリンダのエア噛み又は故障	電動シリンダのエア抜き又は交換（F 仕様のみ）
		各支点部及び摺動部の油切れ	支点部及び摺動部への注油（保守･点検参照）
ジョイント	異　音　の　発　生	グリス切れ	グリス注入
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	た　わ　み　発　生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

消 耗 部 品

1. ドラム
   750
   コード 7660859
   850
   コード 7660934



2. ナタ爪
   BR3060RZ
   コード 67811

3. ハイド爪
   AR31
   コード 49870

4. フロントシテンシャフト用シャーボルト
   シャーボルトキット（ホンタイ）
   コード 7662957
   ※シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。

5. テンバコーウンジク用シャーボルト
   シャーボルトキット（テンバ）
   コード 7662959
   ※シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。

6. テンションプレート
   コード 7662868

7. ローラチェン
   メイン コード 9440191
   ドラム コード 9440192

主 要 諸 元

型　　式		FR751CT-0S FR751FT-0S	FR751CT-3S FR751FT-3S	FR751CT-4S FR751FT-4S	FR751C-1S FR751F-1S
駆動方式		チェン駆動			
寸法	全長（mm）	1680	1860	1860	1860
	全幅（mm）	1125	1125	1125	1125
	全高（mm）	1405	1405	1405	1405
質量	※総質量（kg）	286（288）	319（321）	320（322）	306（308）
	スタンド（kg）	24	24	24	24
使用ジョイント			TC69	TC71M	TC69
適応トラクタ KW（PS）		18.4 ～ 33.1（25 ～ 45） 注）手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注）電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装着装置の種類		日農工標準 3P			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅（cm）		170			
畦高さ（cm）		20 ～ 30			
標準耕深（cm）		5 ～ 15			
標準作業速度（km/h）		0.4 ～ 1.0			
作業能率（分/100m）		6 ～ 15			
入力軸回転速度（rpm）		390 ～ 570（PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000）			
ドラム外径（cm）		75			
ローラ外径（cm）		14（標準ローラ）			
天場処理装置		標準装備			
※ オフセット方法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 （電動式オフセット平行リンク機構［格納状態から作業可 68cm 無段階調節］）			
旋回方法		無			

※（　　）内の数値はＦ仕様です。

主 要 諸 元

型　　式		FR751C-S FR751F-S	FR751C-T FR751F-T	FR751C-U FR751F- U	FR751C-MU FR751F-MU
駆　動　方　式		チ　ェ　ン　駆　動			
寸法	全　長（mm）	1900	1940	1900	1900
	全　幅（mm）	1130	1130	1130	1130
	全　高（mm）	1410	1410	1410	1410
質量	※総　質　量（kg）	296（298）	298（300）	300（302）	300（302）
	ス タ ン ド（kg）	24	24	24	24
使用ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ KW（PS）		18.4 ～ 33.1（25 ～ 45） 注）手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注）電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装着装置の種類		日農工特殊 4P			
		A1 形	A2 形	B 形	B 形
最大タイヤ外幅（cm）		170			
畦　高　さ（cm）		20 ～ 30			
標　準　耕　深（cm）		5 ～ 15			
標準作業速度（km/h）		0.4 ～ 1.0			
作業能率（分 /100m）		6 ～ 15			
入力軸回転速度（rpm）		390 ～ 570（PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000）			
ドラム外径（cm）		75			
ローラ外径（cm）		14（標準ローラ）			
天場処理装置		標準装備			
※ オフセット方法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 （電動式オフセット平行リンク機構［格納状態から作業可 68cm 無段階調節］）			
旋　回　方　法		無			

※（　　）内の数値はＦ仕様です。

主 要 諸 元

型　　式		FR751CBT-0S FR751FBT-0S	FR751CBT-3S FR751FBT-3S	FR751CBT-4S FR751FBT-4S	FR751CB-1S FR751FB-1S
駆動方式		チェン駆動			
寸法	全長（mm）	1680	1860	1860	1860
	全幅（mm）	1125	1125	1125	1125
	全高（mm）	1405	1405	1405	1405
質量	※総質量（kg）	295（297）	328（330）	329（331）	315（317）
	スタンド（kg）	24	24	24	24
使用ジョイント			TC69	TC71M	TC69
適応トラクタ KW（PS）		18.4 ～ 33.1（25 ～ 45） 注）手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注）電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装着装置の種類		日農工標準 3P			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅（cm）		170			
畦高さ（cm）		15 ～ 25			
標準耕深（cm）		5 ～ 15			
標準作業速度（km/h）		0.4 ～ 1.0			
作業能率（分/100m）		6 ～ 15			
入力軸回転速度（rpm）		390 ～ 570（PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000）			
ドラム外径（cm）		75			
ローラ外径（cm）		22（2 分割大径ローラ）			
天場処理装置		標準装備			
※ オフセット方法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 （電動式オフセット平行リンク機構［格納状態から作業可 68cm 無段階調節］）			
旋回方法		無			

※（　）内の数値はＦ仕様です。

主要諸元

型式		FR751CB-S FR751FB-S	FR751CB-T FR751FB-T	FR751CB-U FR751FB-U	FR751CB-MU FR751FB-MU
駆動方式		チェン駆動			
寸法	全長(mm)	1900	1940	1900	1900
	全幅(mm)	1130	1130	1130	1130
	全高(mm)	1410	1410	1410	1410
質量	※総質量(kg)	305 (307)	307 (309)	309 (311)	309 (311)
	スタンド(kg)	24	24	24	24
使用ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ KW (PS)		18.4 ～ 33.1 (25 ～ 45) 注)手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注)電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装着装置の種類		日農工特殊 4P			
		A1 形	A2 形	B 形	B 形
最大タイヤ外幅(cm)		170			
畦高さ(cm)		15 ～ 25			
標準耕深(cm)		5 ～ 15			
標準作業速度(km/h)		0.4 ～ 1.0			
作業能率(分/100m)		6 ～ 15			
入力軸回転速度(rpm)		390 ～ 570 (PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000)			
ドラム外径(cm)		75			
ローラ外径(cm)		22 (2 分割大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
※オフセット方法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 (電動式オフセット平行リンク機構[格納状態から作業可 68cm 無段階調節])			
旋回方法		無			

※(　　)内の数値はF仕様です。

主 要 諸 元

型　　式		FR851CT-0S FR851FT-0S	FR851CT-3S FR851FT-3S	FR851CT-4S FR851FT-4S	FR851C-1S FR851F-1S
駆　動　方　式		チ　ェ　ン　駆　動			
寸法	全　長（mm）	1690	1870	1870	1870
	全　幅（mm）	1170	1170	1170	1170
	全　高（mm）	1410	1410	1410	1410
質量	※総　質　量（kg）	291（293）	324（326）	325（327）	311（313）
	ス タ ン ド（kg）	24	24	24	24
使 用 ジ ョ イ ン ト			TC69	TC71M	TC69
適応トラクタ KW（PS）		18.4 ～ 33.1（25 ～ 45） 注）手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注）電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 標 準 3 P			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅（cm）		170			
畦　高　さ（cm）		20 ～ 30			
標　準　耕　深（cm）		5 ～ 15			
標 準 作 業 速 度（km/h）		0.4 ～ 1.0			
作　業　能　率（分 /100m）		6 ～ 15			
入 力 軸 回 転 速 度（rpm）		390 ～ 570（PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000）			
ド　ラ　ム　外　径（cm）		85			
ロ　ー　ラ　外　径（cm）		14（標準ローラ）			
天　場　処　理　装　置		標準装備			
※ オ　フ　セ　ッ　ト　方　法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 （電動式オフセット平行リンク機構［格納状態から作業可 68cm 無段階調節］）			
旋　回　方　法		無			

※（　　）内の数値はＦ仕様です。

主 要 諸 元

型　　式		FR851C-S FR851F-S	FR851C-T FR851F-T	FR851C-U FR851F- U	FR851C-MU FR851F-MU
駆　動　方　式		チ　ェ　ン　駆　動			
寸法	全　長（mm）	1910	1950	1910	1910
	全　幅（mm）	1170	1170	1170	1170
	全　高（mm）	1410	1410	1410	1410
質量	※総　質　量（kg）	301（303）	303（305）	305（307）	305（307）
	ス タ ン ド（kg）	24	24	24	24
使用ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ KW（PS）		18.4 ～ 33.1（25 ～ 45） 注）手動式：トラクタはタイヤ外幅 ～ 135/ ～ 155/ ～ 176cm 以下に限る 注）電動式：トラクタはタイヤ外幅 176cm 以下に限る			
装着装置の種類		日農工特殊 4P			
		A1 形	A2 形	B 形	B 形
最大タイヤ外幅（cm）		170			
畦　高　さ（cm）		20 ～ 30			
標　準　耕　深（cm）		5 ～ 15			
標準作業速度（km/h）		0.4 ～ 1.0			
作業能率（分/100m）		6 ～ 15			
入力軸回転速度（rpm）		390 ～ 570（PTO1 速～ 2 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000）			
ド ラ ム 外 径（cm）		85			
ロ ー ラ 外 径（cm）		14（標準ローラ）			
天場処理装置		標準装備			
※ オフセット方法		手動式 3 段階オフセット平行リンク機構 （電動式オフセット平行リンク機構［格納状態から作業可 68cm 無段階調節］）			
旋　回　方　法		無			

※（　　）内の数値はＦ仕様です。

用語解説

アタッチメント
作業機に後付けする部品

オートヒッチ
トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ
超低速の作業速度

耕　深
耕うんする深さ

３点リンク
トラクタに作業機を装着するための３点で支持を行うリンク

チェックチェン
トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク
作業機を装着する３点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚　力
トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント
トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド
トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク
作業機を装着する３点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右一本ずつある

ポジションコントロールレバー
作業機を上げ下げするために使用するレバー

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

http://www.kobashiindustries.com

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎(0166)49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎(0197)71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎(028)687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎(025)546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎(086)250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎(096)286-0202